

新球友

同志社大学体育会軟式野球部会報

創設60周年記念号 2019年度11月

2019年度 全国大会出場！

西日本大会出場！



同志社大学体育会軟式野球部

Doshisha College Song

Words by W.M. Vories

Music by Carl Wilhelm

**One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify ; one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!**

Doshisha Heroes

**(again) Doshisha heroes ever must win,
Fight to the finish, never give in, La La La
All play your best, boys,
We'll do the rest, boys.
Fight for the Victory.
La, La, La, (again)
Doshisha wins today.**

Doshisha Cheer

**One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha!**

**One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha!**

**One, two, three,
Who are we?
La, la, la, Doshisha! (applause)**

目次

体育会軟式野球部・球友会歴史	2
球友会、軟式野球部役職一覧	4
部長として 奥田 以在	6
球友会会長として 田村 好司	7
監督として 手塚 整廣	8
主将として 平井 隆太	9
新球友によせて 上西 良明	10
随想	11
四回生終身成績	36
2018年度秋季リーグ	38
2018年度新人戦	44
第35回西日本大会	45
2019年度春季リーグ	46
2019年度全日本大学軟式野球選手権大会	51

メモリアルスナップ	55
全日本大学軟式野球連盟概要	63
軟式野球部規約・公式大会登録に関する規定	64
球友会 各位	70
球友会会則	73
「新球友」創設60周年記念号発刊にあたって	

新球友は今年で創設60周年記念号をむかえることができ、発刊に際しましては球友会の皆様はもとより、他大学の方からもご寄稿を賜りましてありがとうございます。

我が軟式野球部は昨年、秋リーグ優勝を果たし、西日本大会に出場することができました。今年は平井主将の下で、昨年の成績を超えるべく努力を重ね悲願の全国大会出場を達成し、ベスト4という結果に終わりました。現在、秋季リーグ2位、西日本大会出場が決定し西日本大会優勝という目標を達成するため日々精進しております。今後とも先輩諸兄にはご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

体育会軟式野球部・球友会 歴史

西暦 (年度)	年号	年	周年	(顧問) 部長	球友会 会長	監督	コーチ	主将	主務	春季 リーグ戦	全日本大学 軟式野球 選手権大会	主将	主務	秋季 リーグ戦	西日本大学 軟式野球 選手権大会	トピックス	トピックス	
1959	昭和	34	0													有志のメンバーで軟式野球チームが発足	その後、軟式野球同好会の名称を使用 顧問に大崎教授が就任	
1960	昭和	35	1															
1961	昭和	36	2															
1962	昭和	37	3															
1963	昭和	38	4														週2回(水曜日のチャペルアワーの時間と土曜日)に練習。 主な練習場は京都御所の今出川グラウンドや養基場。 同志社大学内の軟式野球大会(約100チームのトーナメント方式)が メインイベント	
1964	昭和	39	5															
1965	昭和	40	6															
1966	昭和	41	7															
1967	昭和	42	8	大崎				廣田		優勝		宮崎				関西五大学リーグ戦スタート。第1回優勝：同志社大学	昭和41年に大阪市立大学との練習試合を契機に他大学との リーグ創設の動き始まる。大阪市立大(体育会)・甲南大・関学大 ・立命館大・同志社大(以上同好会)	
1968	昭和	43	9	?				宮崎		不明		西						
1969	昭和	44	10	?				西		不明		萩原				新町校舎の第二従規範にBOXSを取得		
1970	昭和	45	11	?				萩原		不明		益山						
1971	昭和	46	12	?				益山		不明		上原					メインの練習場を一乗寺グラウンドに変更し、練習は火・水・ 木に週4回となる	
1972	昭和	47	13	?				上原		不明		山下						
1973	昭和	48	14	?				山下		不明		村田						
1974	昭和	49	15	?				村田		不明		小野						
1975	昭和	50	16	?				小野		不明		砂		不明		関西大が加盟し、関西六大学リーグ発足	当初はメインは春季リーグ戦。秋季は新人戦で1試合ずつのリーグ戦	
1976	昭和	51	17	?				砂		不明		田村		不明				
1977	昭和	52	18	渡辺				田村		不明		藤原		不明		経済学部：渡辺弘教授(故人)が顧問就任		
1978	昭和	53	19	渡辺				藤原		2位	1	間部		2位				
1979	昭和	54	20	渡辺				間部		2位	2	新井		優勝			東京六大学と関西六大学の優勝校が毎年交互に遠征し、交流戦を行う	
1980	昭和	55	21	渡辺				新井		2位	3	鎌ヶ江		2位		体育会昇格活動を開始		
1981	昭和	56	22	渡辺				鎌ヶ江		2位	4	畑中	平山	2位		会報誌『新球友』発刊		
1982	昭和	57	23	渡辺				畑中	平山	優勝	5	ベスト4	山本	津坂	優勝			
1983	昭和	58	24	渡辺				山本	津坂	4位	6	出原	西田	6位			全日本大学軟式野球選手権大会 初出場	
1984	昭和	59	25	渡辺				出原	西田	5位	7	小林	永井	2位	1	優勝		
1985	昭和	60	26	渡辺				小林	永井	2位	8	砂子	坂本	優勝	2	優勝		
1986	昭和	61	27	渡辺				砂子	坂本	2位	9	森川	柴田	2位	3	優勝		
1987	昭和	62	28	渡辺	石本			森川	柴田	優勝	10	出場	岩崎	足立	4位	4	OB会組織「球友会」発足	OB会組織「球友会」発足
1988	昭和	63	29	渡辺	石本			岩崎	足立	2位	11	安達	堀岡	2位	5	優勝		
1989	平成	1	30	渡辺	石本			安達	堀岡	優勝	12	出場	宮腰	真鍋	優勝	6	優勝	
1990	平成	2	31	渡辺	石本			宮腰	真鍋	2位	13	谷畑	白井	4位	7			
1991	平成	3	32	渡辺	石本			谷畑	白井	4位	14	下田	平田	優勝	8	出場	日本選抜チームとして小西選手(H10法卒)が米国遠征	
1992	平成	4	33	渡辺	石本			下田	平田	6位	15	池本	高松	4位	9			
1993	平成	5	34	渡辺	石本			池本	高松	3位	16	志満	藤本	3位	10			
1994	平成	6	35	渡辺	石本			志満	藤本	4位	17	大前	井上	5位	11			
1995	平成	7	36	渡辺	石本			大前	井上	5位	18	小島	村上	優勝	12	優勝	H7年西日本大会優勝するも開会式に参加していない選手を 起用する規約違反が発覚。対外試合禁止処分	
1996	平成	8	37	渡辺	増田			小島	村上	優勝	19	ベスト4	斉藤	本田	優勝	13		出場
1997	平成	9	38	北川	増田			斉藤	本田	優勝	20	準優勝	福島	石田	2位	14		出場
1998	平成	10	39	北川	増田			福島	石田	優勝	21	3位	柳	福田	4位	15		
1999	平成	11	40	北川	増田			柳	福田	優勝	22	出場	坊農	宇井	2位	16	出場	事務局：不祥事発生等より今後の学生からの種々の相談窓口 として、またOB会活動の実務を担う部門
2000	平成	12	41	石倉	増田			坊農	宇井	2位	23	平野	福廣	優勝	17	出場		
2001	平成	13	42	石倉	塚本	塚本	長谷川	平野	福廣	優勝	24	出場	鈴木	塩田	優勝	18	優勝	
2002	平成	14	43	北川	塚本	塚本	長谷川	鈴木	塩田	優勝	25	準優勝	花岡	桑城	優勝	19	4位	
2003	平成	15	44	北川	塚本	塚本	長谷川	花岡	桑城	4位	26	濱本	元	優勝	20	3位	日本選抜チームとして濱本選手(H17商卒)が米国遠征	H14年 同志社スポーツユニオンより特別優秀賞「団体の部」を受賞
2004	平成	16	45	北川	塚本	塚本	長谷川	濱本	元	2位	27	市村	藤森	優勝	21	準優勝		
2005	平成	17	46	北川	安田	塚本	長谷川	市村	藤森	優勝	28	4位	柳本	中塚	2位	22	準優勝	
2006	平成	18	47	北川	安田	塚本	長谷川	柳本	中塚	2位	29	柳川	鬼迫	2位	23	出場		
2007	平成	19	48	北川	安田	塚本	長谷川	柳川	鬼迫	3位	30	熊中	山崎	5位	24			早稲田大学との定期戦開始 春季リーグ戦を10戦全勝で優勝
2008	平成	20	49	北川	安田	塚本	長谷川	熊中	山崎	優勝	31	3位	深澤	佐藤	優勝	25	出場	
2009	平成	21	50	北川	安田	塚本	長谷川	深澤	佐藤	2位	32	鈴木	宮崎	優勝	26	優勝		
2010	平成	22	51	北川	三宅	塚本	長谷川	鈴木	宮崎	優勝	33	ベスト8	湯浅	四方	優勝	27	優勝	
2011	平成	23	52	北川	三宅	塚本	長谷川	中村	土屋	優勝	34	優勝	中村	土屋	優勝	28	---	東日本大震災のため全日本大学軟式野球選手権大会は11月に開催
2012	平成	24	53	北川	三宅	塚本	三宅代行	寺下	安田	2位	35	寺下	安田	4位	29			
2013	平成	25	54	北川	三宅	塚本	三宅代行	豊田	木下	2位	36	豊田	木下	2位	30	優勝		
2014	平成	26	55	北川	田村	塚本	田村代行	富田	木下	3位	37	富田	木下	2位	31	出場		
2015	平成	27	56	北川	田村	塚本	田村代行	坂	海田	優勝	38	準優勝	坂	海田	優勝	32	準優勝	関西在住OBによる野球チーム「関西どうなんや」発足
2016	平成	28	57	北川	田村	塚本	田村代行	白城	石田	2位	39	白城	石田	優勝	33	出場		
2017	平成	29	58	奥田	田村	手塚	塚本	与那覇	吉岡	2位	40	与那覇	吉岡	2位	34	ベスト8		
2018	平成	30	59	奥田	田村	手塚	塚本	松井	田川	2位	41	松井	田川	優勝	35			
2019	平成 令和	31 1	60	奥田	田村	手塚	塚本	平井	天内	優勝	42	3位	平井	天内	2位	36	創設60周年	

2019年度軟式野球部・球友会役職一覧

軟式野球部			
	スタッフ		
	部長	奥田 以在	
	監督	手塚 整廣	S56
	コーチ	塚本 幸雄	S46
		(岩佐 拓己)	(H14)
	(藤森 稔人)	(H18)	

球友会(OBOG会)			
役員			
役員会	会長	田村 好司	S53
	副会長	小林 宏行	S56
		大倉 広継	S56
監査役		木下 幸典	S51
		柴田 嘉宏	S61

現役員				
役員会	幹部会	主将	平井 隆太	3回生
		副主将	太田 悠馬	3回生
		〃	横橋 史典	3回生
		主務	天内 凌将	3回生
		会計	川端 大介	2回生
		連盟	藤本 修成	3回生
		渉外	辻村 一真	3回生
		ホームページ担当	井上 明彦	3回生
		道具担当	木崎 智統	3回生

事務局		
事務局長	藤森 稔人	H18
会計担当	岩佐 拓己	H14
総務担当(メール担当)	三本木 秀樹	H23
総務担当(ハガキ担当)	神所 佑希	H27
	宮崎 航太	H23

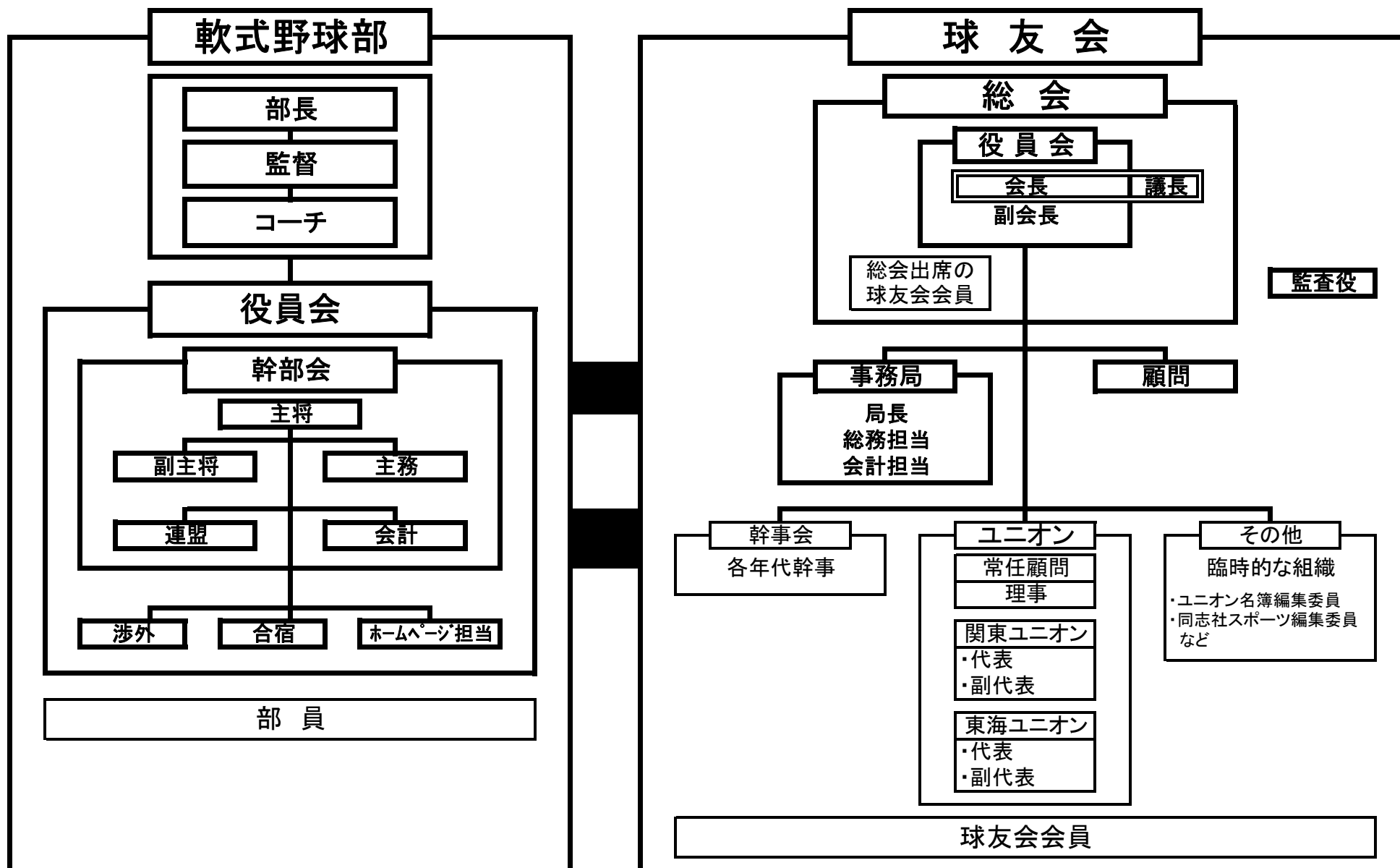
顧問	(塚本 幸雄)	(S46)
	(手塚 整廣)	(S56)
	長谷川 利通	H9
	本田 弦	H10

スポーツユニオン		
常任顧問	塚本 幸雄	S46
理事	田村 好司	S53
理事	廣田 憲司	S43
理事	安田 一夫	S43
理事	井垣 篤司	S54
理事	平山 正則	S58
理事	長谷川 利通	H9
理事	岩佐 拓己	H14

関東ユニオン代表	坂下 雅弘	S59
〃 副代表	川上 晋	H12

東海ユニオン代表	平山 正則	S58
〃 副代表	岩田 拓朗	H18
〃 副代表	牧原 光章	H21

同志社大学体育会軟式野球部・球友会組織図



ご挨拶

部長 奥田 以在^{いあり}

同志社大学体育会軟式野球部球友会の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、軟式野球部の創部60周年、おめでとうございます。

さて、今年度のチームは春季リーグで優勝し、夏の全国大会への切符を手に致しました。全国大会でも、前年優勝校の東北福祉大学を破るなど存分に力を発揮し、第3位という好成績を収めました。現在は秋季リーグを戦っておりますが、連勝が続いており、西日本大会への出場を決め、あとは優勝を目指す状況となっております。

このチームの成長を支えて下さっているのが、監督とコーチによるきめ細やかなご指導です。軟式野球部の伝統である学生主体という部分を大切にされつつ、学生の様子を見ながら温かいサポートをして下さっています。そのお陰もあって、学生たちも自分たちが主体となる部活動という自覚とともに、周囲の方々から見られても恥ずかしくない部であろうとする心持ちをしつかりと持てるようになってきたと思います。教員を務めている私としては、監督とコーチのご指導から学ぶことが沢山あります。

そして、田村球友会会長をはじめとした球友会の皆さまには、部活動の円滑な運営のために種々のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。また、球友会の皆様には就職活動の場面でも、様々にサポートして頂いていることと存じます。依然として、世間では売り手市場という言葉が

飛び交っておりますが、実際にはそのような簡単なものではないと思います。厳しい就職活動にあつて、皆さまにサポートを頂けることは大変に心強く思います。重ねて御礼申し上げます。

ところで、私は部長を務めさせて頂いて3年目となりますが、その中で軟式野球部の伝統がようやく少しずつわかってきました。特に、同好会出身の部活動だから、学生の自主性を伴うことで、部員たちが大きく成長するというを感じています。現在の軟式野球部のホームページの紹介文に素敵な一節があります。「私達は同好会魂を忘れてはいません。その根本に野球が大好きだという気持ちがあるからこそ、みんな頑張っています。さらに、経験者がプレーや考え方で未経験者を引っ張り、未経験者は引っ張られながらも自分を磨き、ひたむきに頑張っています」というものです。野球をやりたい学生、野球好きの学生が集まり、野球の楽しさを大事にしつつも、強いチームを目指して切磋琢磨している様子が感じられる一節だと思います。私は、この全員で運営して切磋琢磨する意識が、野球の実力だけではなく、社会性なども含めた多方面での成長を学生にもたらしめているのではないかと感じております。

今後この良き伝統が引き継がれることを願いつつ、球友会の皆様には温かいご支援をお願いして、ご挨拶とさせて頂きます。

ご挨拶

球友会会長 田村 好司

同志社軟式野球部球友会会員並びに現役部員の皆様にはご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より球友会へご支援ご協力いただき誠にありがとうございます。

今年も台風や大雨などによる大きな被害が全国各地で発生しています。「数十年に一度」、「今までに経験したことのない」など近年はその被害規模も大きくなってきています。本当にいつどこで起こっても不思議ではないと思います。自治体から避難勧告・避難指示など発令されますが、最後は個人の判断になります。日ごろから、自治体で出されているハザードマップなどを確認いただき、防災に対する意識を持ち警報などに対しては早い目の避難などの対応をお願いしたいと思います。

さて、今年は春季リーグ戦で久しぶりに立命館に2勝しリーグ優勝をはたし、4年ぶりに全国大会に出場してくれました。全国大会ではエースを欠きながら4回生2名含め全員でよく守り切り3位という結果を残してくれました。本当に全員が頑張ってくれたと思います。また、今年はリーグ戦から応援団の応援を受け、全国大会では全試合力強い応援をしてもらいました。本当に応援の力を受けての結果だったと思います。ありがとうございます。秋季リーグ戦は全国大会から休みなしで戦いが始まっています。疲れによる影響もあり打線が振るわれないなかで現在3連勝しています。西日本大会に出場し優勝を目指してもらいたいと思います。総会では良い報告ができることを期待しています。

常に、現役の皆さんには「野球もマナーも日本一」を目標に頑張ってもらいたいと思います。同志社大学軟式野球部の部員、同志社大学学生として、また、一社会人として日常生活でもコンプライアンスを遵守し学生らしく有意義な学生生活を送ってもらいたいと思います。個人では行わないことも集団心理が働き、ついでを越してしまうことがあります。特に、集団の中ではお互い注意しあえる関係を作ってください。

さて、1959年に軟式野球同好会として発足し、2004年には体育会に加盟、今年で60年を迎えます。節目として60周年祝賀会を予定しています。体育会加盟後も同好会時代の流れを汲み、学生主体で活動が行われています。多くの先輩が築いてこられた伝統を守りつつ、改善すべきところは改善し新たに伝統を築いていってもらいたいと思います。

近年、現役部員の家族の皆さんが多く全国大会、リーグ戦や練習試合にも応援に来ていただいています。平日の開催で難しいとは思いますが、球友会会員の皆さんにも都合がよければ直接球場へ足を運んでいただき現役時代を思いだしてみても如何でしょうか。なお、使用球場が変わってきていますので、日程とともに軟式野球部ホームページでご確認いただければ幸いです。

今後とも軟式野球部及び球友会の発展の為に、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。同志社大学軟式野球部関係の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

ご挨拶

監督 手塚 整廣

同志社大学体育会軟式野球部球友会の皆様並びに現役部員の皆様にはますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

「平成」という時代が終わり「令和」という時代が始まった2019年。軟式野球部も昭和34年に創部以来60周年を迎えます。

この記念すべき年に4年ぶりの全国大会出場を目指し新チームは立ち上がりました。平井主将を中心とした新幹部と昨年の悔しさを糧に現役続行を選んだ松井前主将、田川前主務が加わりチームは打倒立命館に燃えて春季リーグ戦を戦いました。エース木崎を中心とした守り勝つ全員野球を展開し、8戦全勝でこれに勝てば優勝という立命館戦を迎えました。ゲームは白熱した投手戦となり延長タイブレーク戦に入りました。先行される苦しい展開でしたが副主将太田の劇的な逆転サヨナラホームランで勝利し優勝を勝ち取りました。歓呼に沸くナインの輪の横でしっかりと抱き合う平井主将と松井前主将の姿を見て胸が熱くなりました。

迎えた8月の全国大会でも同志社野球を見事に展開してくれました。故障のエースに代わってこの日のために調整してきた4回生投手田川とリーグ戦未経験の1回生投手陣を軸に、チーム一丸となり攻守に躍動しました。

福山平成大学、駒澤大学を下し準々決勝戦は前年覇者、東北福祉大学戦となりました。先制しながらも逆転される苦しい展開でしたが最後まで

であきらめず、追いつき逆転サヨナラ勝利をおさめました。残念ながら準決勝戦は桐蔭横浜大学に惜敗しましたが全国ベスト4で大会を終えました。

健闘はしましたが部員達には優勝を逃した悔いが残っています。4回生が引退し新たなメンバーで秋季リーグ戦優勝、西日本大会優勝という目標に切り替えてスタートしています。皆様に良いご報告ができるように期待して見守りたいと思います。

野球をプレーするにあたって競技スポーツですから勝つことは大切です。ですが、ただ勝つためだけではなくそのプロセスの中で心身を鍛錬して人格形成を学ぶことも大切となります。同志社らしい学業と野球のバランスのとれた活動をせねばなりません。同志社には、知、徳、体という教育理念があります。そのバランスを大切にして「さすが同志社」と思われるような素晴らしい良心に満ちた社会人となつてほしいと思っています。

事あることに言われておりますが、コンプライアンスの問題です。チームとして行動している時と個人になった時では意識も違うでしょうが、常に同志社の名を背負う誇り高き体育会の一員であることを忘れず「野球もマナーも日本一」のチームであつて欲しいと思います。

最後になりましたが球友会の皆様、平素より学生へのご支援、ご声援誠にありがとうございます。なにとぞ、末永くご支援のほどをお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

主将として

2019年度主将 平井 隆太

すっかり日も短くなり、冷たく吹く風には冬の気配が漂う季節となりました。同志社大学体育会軟式野球部の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

松井主将を中心とした昨年度のチームはまとまりがあり、チームワークの良い学年であったと記憶しております。個々の個性は強いものがありました。幹部を中心に時には楽しく、時には厳しく。そんな一緒にいて楽しい先輩方の元、私たち下級生は伸び伸びとプレーさせて頂きました。春季リーグでは苦杯を喫した立命館にも秋季リーグでは雪辱を果たし、チーム一丸で西日本大会を躍動させていた先輩方の姿は、まるで昨日のことのように思い出されます。

このような中、新主将となった私の使命は先輩方の想いを引き継ぎ4年ぶりとなる「全国大会出場・優勝する」事でありました。目標を達成すべく、自分達には何が必要なのかミーティングからスタートしました。全国大会出場・制覇という目標に向け、どれほどの覚悟をもって練習に取り組むのか、個々の技術向上、チームの意識改革については特に熟考しました。また例年より練習時間も増やしチームワークの向上にも努めました。

春合宿にて厳しい練習をこなし春季リーグはすぐに開幕しました。立命館以外との敗戦が許されない条件でしたが、部員の奮起に助けられ無敗のまま立命館戦を迎えることとなりました。5戦目、9戦目とライバ

ル立命館に見事勝利し最終戦は敗れたものの9勝1敗で4年ぶりの全国大会出場の切符を手に入れました。

春季リーグ終了後、私たちは次なる「全国制覇」に向け再びミーティングを行いました。リーグ戦を見つめなおしチームの良い点は継続しつつ、かつ改善すべき点においてはチームで変化を付ける必要がありました。例年より早く1回生が入部したため更なる競争を煽りチーム力の向上を図りました。また夏季長期休暇においても昨年より練習時間を増やし、厳しい暑さの中野球漬けの日々を過ごしました。その成果あつて、全国大会という華やかな舞台で3位という結果を残すことができました。来たる西日本大会では全国大会の勢いそのままに優勝を目指して日々精進しております。

野球部の4年間は大変貴重なものであると考えております。野球技術の向上だけではなく、社会における礼儀やマナー、大学生だからこそ磨くことのできる主体性・気配り、心配り等社会で必要とされる要素を獲得する時期であります。多くの方のご支援を賜りながらこのような素晴らしい環境で野球ができることに感謝し、残りの学生生活を実りあるものにしていききたいと思っております。

最後となりましたが、日頃からの多くのご支援を賜りまして誠にありがとうございます。我々軟式野球部の更なる発展のために今後とも多くのご支援、またご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

「新球友によせて」

立命館大学体育会軟式野球部 上西 良明

私は全国大会ベスト8という結果で終わった前チームの後を引き継ぎ、新チームの主将を務めさせて頂きました。「全国制覇」という目標を掲げて日々チームを鼓舞していました。その中で絶対に倒さなくてはならない相手、それが同志社大学さんでした。正直、今の関西六大学リーグの中で同志社さんと我が立命館は頭一つ抜けていると感じています。その為同志社さんとの一戦は両チーム共に特に気合が入り、私や立命館にとって特別な試合でした。

同志社さんの強みとして、堅い守備、積極的な走塁といった細かい相手の嫌がる野球があると思います。春リーグの同志社さんとの第一戦では、まさにそのような強みを出した攻撃をされ、我が立命館は完敗を喫しました。私はこの一戦を機に、自分達ももっと相手の嫌がる野球をしようという日々の練習でもチームに言い聞かせました。そして第二戦では逆に我が立命館が細かい粘りの野球を披露することができ、勝利を収めることが出来ました。この一戦を機にチームとして非常に成長できたと感じております。このように同志社さんから学ぶべきものは多くあり、良きライバルとして切磋琢磨しながら、お互いを高め合える存在があったからこそ、全国大会出場に繋がれたのだと思います。

全国大会に出場し感じたのは、関東勢のレベルの高さです。私達が二回戦で対戦した白鵬大学さんは今まで対戦したチームで一番バットが振れ

ており、守備も強いチームでした。特に衝撃だったのは、下位打者に場外ホームランを打たれてしまった事です。全国大会で優勝する為には、打力という部分でも底上げが必要であると強く感じました。

今後も同志社さんと切磋琢磨しながら、時には全国大会で感じた差を共有し、関西六大学リーグを盛り上げ、全国大会で優勝できるチームを関西六大学の中に作っていくよう精進して参りましょう。永遠のライバルである同志社大学体育会軟式野球部さんの益々のご活躍を、心より申し上げます。この度はありがとうございました。

随想

随想

商学部四回生 松井 壘

高校時代の怪我が重く、野球は辞めようと決意して入学した私は学生主体で運営しておりプレーができなくても充実した日々を過ごせるのではないかと感じ軟式野球部への入部を決めた。練習場の環境も最悪で選手のレベルも決して高いとは言えない。軟式野球部に対する第一印象がこんなにも悪かった私が、同志社大学体育会軟式野球部の魅力に引き込まれるまでさほど時間はかからなかった。

入部から2年間、先輩方とした野球はそれから2年間の私の礎になっていることは間違いないし、4年間続けられたのも素敵な先輩方に恵まれたからに違いないのだが、先輩方との思い出を綴ると文字数にきりがないのでここでは割愛させていただきます。

2回生の夏、次期主将に選んでもらった。私は思った事はハッキリ言うタイプで妥協はしないし、勝負に対する気持ちは誰よりも強かったので私が主将になると厳し過ぎるのではないかと、ワンマンチームになるのではないかと危惧した同期もいたと思う。その中で私を主将に選んでくれた、土井が副主将に推薦された、途中退部したあいつが副主将に立候補したあの夜のミーティングのことは一生忘れないと思う。

私が主将、副主将に松本、茶城、主務に田川で始まった自分達の代だが、どの代よりも練習は厳しくし、1つのメニュー・プレーに対する必死さ、質の高さを求めた。名門校大阪桐蔭も一回戦負け常連の交野高校もノックはするし、フリーバッティングもする。だが決定的にこのメニューに対する意識は段違いのほずである。しょうもないミスで負けが濃厚な試合

を投げ出したことはないが、惰性でミスを連発するノック中にはノックバットを投げたことだつてある。一歳年上の浪人生に本気で説教したこともあるし、同じ学生にそこまで言う？というくらい怒ったことなんて多々ある。そこまですべても全国大会を逃したし、優勝候補と目されて臨んだ西日本大会は初戦負け。それでも幹部の3人が陰でフォローしてくれたり、同期が腐ることなく練習してくれたお陰でなんとか主将をやり遂げることができた。西日本大会初戦、ビハインドで迎えた9回表の攻撃中、あの三木が声を張り上げながら目を泣き腫らしていた様に見える。彼はいつもそのような目をしているので泣き腫らしていたのかは分からないが、あれが涙によるものだとすると本当に良いチームだったのではないかと思う。総じて同期には本当に感謝している。

4回生でも現役として受け入れてくれて共に野球をしてくれた後輩達、本当にありがとう。後輩達との野球で感動を与えられるとは思っていなかった。全国制覇まであと一步に見えて、その壁は高かったな。冒頭で軟式野球部の前に同志社大学体育会を付けたのは、他の大学や部にはないここにしかない良さがたくさんあるからである。先輩方が築き上げて下さった軟式野球部での学生野球を存分に楽しんでほしい。

最後に4年間ご指導下さった手塚監督、奥田部長、塚本前監督、北川前部長、藤森コーチ、たくさん支援を賜ったOBOG諸兄の皆様方、父兄の皆様、誠にありがとうございました。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

商学部四回生 松本 淳志

大学生活を振り返ってみると、この軟式野球部の存在のおかげで充実した大学生活を送ることができたと感じる。大変なこともあったけれど、どれもこれも思い出となっている。

入部したきっかけは、何か一つ体育会に入部しようと思ったことがきっかけだ。そこで、小学1年生からずっと続けていた野球をやろうと入部した。大学では、好奇心からピッチャーに挑戦してみることにした。しかし、2回生になると段々とピッチャーが嫌になった。理由は、しんどいのとバッティングの機会が少ないことだ。そこで、2回生の夏ごろ肩が痛いという由をつけファーストに転向することにした。そんなテキトーだった私を変えざる出来事があった。それは副主将に就任したことだ。高校で主将を経験したことからもリーダーにはこりこりで、幹部に入りたくなかった。しかし、周りからの推薦を受け、選んでくれたのならやるしかないと思いをくくった。

この出来事がきっかけで、最後の1年くらいは一選手・一副主将として自分なりの精一杯を尽くして終わろうと決めた。3回生の最初はベンチが多かったが、春のリーグ戦前にはレギュラーとして試合に出られるようになり、結果、1年間レギュラーとして試合に出続けることができた。その間には様々な困難もあった。春のリーグ戦の2、3日前の練習で足首を怪我してしまった。大丈夫、大丈夫と言っていたが、実際はパンパンに青く腫れており、整骨院の先生からは全治1か月以上はかかると言われてい

たが、テーピングを何重にも巻き試合に出続けた。秋のリーグ戦では15打席近くヒットが出ず、「いつになったら打つんや。」とベンチに煽られ、打席に立つことが辛い時期もあった。チームとして大変な時期も多々あり、副主将として力不足だなと感じた時期もあった。それでも前を向き練習に励んだ。その原動力となったのは、同期24名の存在だと私は思う。個性が強いながらも野球には真剣に取り組む同期とともに、強いチームへと成長していきたいと思わせてくれたことがどんな困難にも立ち向かえていった要因だと思う。チーム成績はイマイチで、幹部として同期の期待に応えることができなかったことは残念でならないが、そんな幹部にもしつかりとついてきてくれた同期には感謝している。また、副主将に選んでくれたことで中身の濃い体育会生活を送ることができた。本当にありがとう。

ドラドラと長々書いたが、軟式野球部を通して学んだことは“周りへの感謝”だ。学生主体の環境で満足に野球ができたこと、副主将として成長できたこと、レギュラーとして試合に出られたこと、どれをとっても周りの支えがなかったら不可能なことだった。これからも周りへの感謝を忘れず、社会人として活躍していきたい。

最後になりますが、手塚監督、塚本総監督、田村球友会会長、奥田部長先生をはじめとする多くの諸先輩方には多大なるご支援を賜りましたこと心より感謝致します。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈っています。

随想

商学部四回生 茶城 和也

11月6日熊本県藤崎台県営球場、熊本県立大学との試合に敗れて事実上私たちの代は引退した。最終回の攻撃中、隣にいた同級生の三木が涙を流しながら大きな声を出していたことを今でも鮮明に覚えている。ベンチの一番端ここに立ち、ベンチ内のメンバー、スタンドで大声援を送る仲間を見たら自然と涙があふれた。その瞬間、同志社大学体育会軟式野球部に入部して本当によかったと改めて実感した。

1年生の春、まさか自分が大学で野球を続けるとは思っていなかった。高校野球でもうしんどいことはうんざりだと考えていたからだ。意味もなく髪の毛を赤色に染め、テニスサークルの新歓コンパに参加して家に帰る。そんな退屈で惰性の毎日を過ごしている中、高校の同級生井関に誘われて軟式野球部の練習に1度足を運んでみることにした。指導者がいないながらも切磋琢磨し互いを高めあう先輩の姿、野球を愛し心の底から楽しんでる姿に感化された。何よりも練習に来ていた同級生となんとなく波長が合いそうだった。迷わずに入部を決めた。今思えばあの時の私の直感は間違っていなかった、大正解だった。

実際に入部してみると楽しいことばかりではなかった。同級生の同じポジションに甲子園経験者の松井がいて、試合に出れる気配がない。松井は試合に出れば大活躍。他の内野手の同級生たちも徐々に試合に出るようになり活躍し始めた。自分だけが置いていかれている気がした時もあった。しかし、軟式野球部をやめたいと思ったことは一度もなかった。練

習に行けば、ともに支えあう仲間、喜びや悔しさを共感できる仲間がいたからだ。同志社大学軟式野球部が、24人の仲間たちが好きだった。だからこそ、自分はチームにどう貢献していくべきか、チームにどういう方法で利益をもたらすのかを常に考えて行動した。お手本はすぐそばにいる先輩たちだった。試合に出ることができなくても、悔しさを抑えてそれぞれの方法でチームに貢献する先輩。チーム最適、適材適所で役割を果たす先輩。少し上から目線の発言になって申し訳ないが、この風土は今後も引き継いでいってほしいと思う。また自分たちの代で途絶えることなく引き継げていたら嬉しく思う。

軟式野球部としての活動で得たものは何かと問われたら即答したい。仲間だ。共に喜び共に泣いたあの青春の日々を私は一生忘れない。これからも共に励ましあい、支えあって生きていきたい。本当にありがとう。

最後になりますが、手塚監督、塚本総監督、奥田部長先生、北川先生、田村球友会会長をはじめ、諸先輩方には多大なるご指導、ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今後の同志社大学軟式野球部の益々のご活躍を祈っています。

随想

商学部4回生 田川 勇貴

19歳の時に大学に入学した。それまで1年間朝から夜まで勉強しかしてこなかった私にもう野球をやる体力はなく、サークルにでも入ろうと思っていた。だが、あるサークルの新歓で出会った、わんぱくでふくよかな体つきをした小野駿亮という男に何度も軟式野球部の話を聞かされた。今思えばこの出会いがなければ私の大学生活はどうなっていたのだろうか。そのサークルで出会った小野、久野、海野、安田とともに私は軟式野球部に入った。そんな軟式野球部での活動は本当に充実していた。3度の西日本大会出場・リーグ優勝、最終学年での全国出場、合宿恒例となった中妻・三木との一発芸披露、同期での呑み会等、この4年間で私は数えきれない程の思い出をつくることが出来た。

その中でも一番濃い思い出となったのは、“幹部学年として活動した1年間”である。なぜか早い段階から私は会計と主務を務めることが決まっておろ、誰もその意見に対して否定してこなかった。全幅の信頼を寄せられていたのかなと思う一方で、本当に自分で務まるのか不安でしかなかった。実際にその期間はいろんなことが矢継ぎ早に起きた。広島遠征に行ったり、夜中の3時に救急車に付き添ったり、良心館で何回も監督や部長と集まったり。嬉しいことがあったと思ったり、またすぐに辛いことが起き、それについて話し合ったりしての連続で、幹部LINEは毎日動いていた。さらに役職の業務もあったので、自分の事で一杯だった時もあつたし、組織をまとめる立場としてやはり自分は向いていないのではな

いかと思ったりもした。けれど、幹部以外の同期がチームを鼓舞してくれたり、後輩に話しかけたりしてチームを変えてくれようとしているのを見て、肩の荷が下りた。チーム作りは皆で行うものだと思ひし、一人一人に役割があり、自分だけで抱え込んではいけないことを学んだ。だからこそ全員が一つのプレーに喜んでる姿を見るのがとても嬉しかった。

秋季リーグで優勝はしたものの、全国も出れなかったし、西日本も初戦で負けたので、結果を残すことはできなかったけれど、最後のミーティングで同期全員が「この代で野球できて良かった」と涙ながらに話してくれて、1年間めげずに頑張ってきた良かったと思ひた。体育会である以上結果を残さなければならぬのはもちろんのことではあるが、同じ目標に向かつて全員で取り組む過程も同じくらい大事なことであり私は感じた。後輩にはこれら両方で良い結果が出せるように頑張つてほしいし、私たちが成し遂げることができなかった全国優勝・西日本優勝という目標を達成できるよう頑張つてほしいと願っている。

末筆にはなりますが、手塚監督、奥田部長先生、田村球友会会長、塚本総監督をはじめ諸先輩方には、多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。また、後輩や同期、家族の支えもあり、ここまで野球を続けることが出来ました。この4年間は私の人生の宝物であり、自分を大きく成長させてくれた期間でした。本当に有難うございました。

随想

商学部四回生 海野 智洋

「君、アメフト部に入らない？」2016年4月、桜の花びらと大学への希望の聲が飛び交う今出川に1人座っていた僕にアメフト部からの勧誘が来た。胴長短足なうえに現在よりも5キロほど体重が重かった身体は、座っていると180センチ80キロくらいのがタイに見えていたらしい。熱烈なおファーを受け、タックルなんてしたくないんだなあと思いながら説明を聞いていた僕は、横目にどう見てもアメフトより強そうな男(のちに知ることとなる與那覇巧)を目撃し、同志社に軟式野球部があることを知った。

元々大学ではサークルで遊びたいと考えていた僕は、酒が荒いと聞いていたテニサーは避け、野球やサッカー、アカペラやポケモンなど様々なサークルを転々としていた。新歓と睡眠の二ト生活を1ヶ月ほど過ごし、やっぱり何か本気でやりたいと思い始めていた頃、野球サークルFの新歓合宿である男と出会った。そびえ立つ岸壁のようなその男は、まさに180センチ80キロの大男、安田将史である。安田は見た目とはかけ離れた甘い声で、本気になれるものを探していた僕に軟式野球部のことを紹介してくれたのである。早速とはいいながらも入部期限ギリギリの5月21日土曜日、初めてグラウンドに足を運んだ。草がボーボーのグラウンド(伏見公園)で和やかな雰囲気に着替えている様子を見たときは「この部活大丈夫なのかな」と思ったが、ミーティングが始まると先輩たちの表情は一変。白城さんのピリピリとした雰囲気にはほとんどどのギヤッ

プを感じ、この部活ならまた野球ができるかも知れないと思い、入部を即決した。

入部すると、高校までとは違った色々なタイプの仲間に出会えた。甲子園球児の頼れる松井、ペンギンみたいでかわいい松本、笑顔が素敵な池田の茶城、浪人田川、やる気がないように実はやるキャラ山本、浪人久野、ミテックの御曹司三木、浪人中妻、陸上部だったの？片岡、浅井のライバル岩井、岩井のライバル浅井、笑顔が素敵な池田の井関、オタクみたいなスラッガー樫尾、素振り般教予習復習三輪、顔デカ福田、デブなのにデブキャラじゃない河合、恐らく一生で一番おもしろい稲葉、大将小野、シンプルにかわいい佐藤、入部の恩人安田、頼れる主将土井、愛する美人ゆりこ、ほわほわしててかわいいあんな。

就職活動の時に話していたような真面目な話もありますが、とにかくこのメンバーで勝ちに向かつて毎日練習していた日々が楽しかった。野球の話はまた飲みに行つてしよう。四年間ありがとうございました。

随想

経済学部四回生 福田 泰之

楽しい学生生活を夢見て同志社大学の門をたたいた。多くの団体が構内にブースを構え、新入生を勧誘しているあの場所に行ってみた。一人でぐるぐると周り、そろそろ帰ろうと思って自分が持つピラの枚数を数えた。二枚だけであつた。しかも、全く興味のない団体だ。自宅に帰つた私は、大学生活において最も肝心となるスタートダッシュをミスしたことに気付いた。少し考えたら分かることだ。内気で自分に自信がない私が、良くも悪くもワイワイしている団体に溶け込めるわけがない、はやく部活に入れと当時の私に喝を入れたい。

そんなこんなで刺激のない毎日を過ごしていたある日、突然もう一度野球をしたいという衝動にかられた。軟式野球部の存在に気付き、すぐさま土曜日の伏見での練習に自転車で向かつた。石段で着替えていると、方言丸出しの男が話しかけてきた。しかも、同じ経済学部ときた。樫尾紘平だ。彼に対する最初の印象は、癖が強く、分かり合うことなど到底できないといった感じだ。実際、半年に一回くらい口論することがあつたが、今となつては同じゼミ、バイト先であり、ラーメンと一緒に食べに行くほどの仲になつている。その日の練習を終え、松井・松本と吉野家で昼飯を食べ、一緒に帰っている途中で入部を決めた。日々の練習に慣れてきてはいたが、同期と仲の良い関係を築けずにあたふたある日、勉強を教えてくれと近づく男がいた。三木竜真だ。彼はいわゆる野球エリートなのだが、勉強に関しては小学生で時が止まっているくらいの頭脳だつた。特に

数学は壊滅的であり、頭脳の樫尾・板書の福田で彼の単位取得をサポートした。80単位くらいは私たちの功績であろう。ただ、このことがきつかけで、軟式における交友関係は広がり、練習が楽しくなつていった。

全てのエピソードを書くに卒論並みの文量となるので、ここで止めますが、そのくらい密度の濃い四年間であつたと胸を張って言えます。大学で出来た友達は軟式の同期23人+ α だけですが、私にとつてはそれで充分過ぎました。一回生の春、一人で授業を受け、明德館前のベンチで寂しくパンを頬張つていた私が、今では部活に限らず、ゼミ・バイト内にも軟式の同期がいて、一緒に旅行も行く仲となつています。

このようになれたのも、私にとつてかけがいのない居場所を作ってくれた松井・松本・茶城・田川のおかげだと思っています。彼らは、人数も多ければ様々な価値観を持つ同期の先頭に立ち、一人一人の個性を大切にし、自由に野球ができる空間を常に作っていました。リーグ優勝等の記憶も鮮明に残っていますが、三栖の練習でのなんてことない出来事が今蘇つて懐かしんでいます。この仲間と野球が出来て良かったと思えるのも四人の幹部のおかげです。本当にありがとうございます。

最後になりますが、手塚監督、塚本総監督、田村球友会会長、奥田部長先生をはじめ、諸先輩方には多大なる御指導、御支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。野球人生最後の場所がこの軟式野球部でよかったと感じています。ありがとうございました。

随想

商学部四回生 安田 将史

この軟式野球部では野球のことはもちろんながら、野球以外の面でも色々なことが思い出になっている。何杯食べても飽きない練習終わりのラーメン、何か起こってしまいそうでひやひやする飲み会、きっちり授業を聞いている人にポンコツ達でたかるテスト期間。本当にたくさんあるがここでは野球のことについて書くことにする。今思い返せば、軟式野球部に入部したのは高校最後の夏の大会で初戦で敗退した悔しさが大きかったのではないかと思う。その悔しさを抱えたまま大学生活を送っていた僕を軟式野球部に誘ってくれた田川には感謝している。

入部後初の練習試合でいきなり試合に出場させていただいた。しかし、張り切りすぎて相手チームのファーストを負傷させてしまった。僕の大学デビューは失敗という結果で大学野球が幕を開けた。1回生の時の秋リーグはベンチに入れていただきリーグ優勝を果たし、同志社の強さに驚いたのを覚えている。これから自分たちも結果を出すものだと思っていたがチームとしても個人としてもそう甘くはなかった。

二月の練習中に肉離れを起こしてしまい春は出場することができなかった。この巨体が抱えられてレフトから去っていく姿は多くの四回生は記憶していることだろう。チームも二位となつてしまい全国大会を逃してしまった。その春リーグから挽回を誓った秋リーグはレギュラーになることはできたが後半戦の自分自身の鬼の失速もありまたしても優勝を逃してしまった。

そうこうしている間に3回生になってしまったが、正直今まで野球をしてきて一番苦しい一年間であった。主力として結果を残したいと目標を立てていたがこの一年でリーグ戦で放ったヒットは0。期待して起用してくれた幹部には非常に申し訳なく思っている。個人に関してはろくなことがなかったが、この一年間は非常に印象に残っている。春合宿での事件、あと一勝のところで立命館に敗れ全国を逃した春リーグ、今まで負けっぱなしだった立命館を破り優勝を飾った秋リーグ、まさかの初戦敗退となつてしまった最後の西日本大会。レギュラーとして試合に出られなかった分、今までの野球人生で最もチームの重要性について考えさせられた一年となった。決して満足のいく結果を個人としてもチームとしても出したとは言えないが、私はこのチームに入つてよかったと心から感じている。学生主体の中で24人という多くの同期や、生意気だが頼りになる後輩、いつもチームを支えてくれるマネージャー、全員がチームのためを思つて行動していたのが最後の秋リーグの優勝につながったのではないかと感じている。この経験は一生忘れることのないものとなるだろう。みんな本当にありがとう。そしてこれからもよろしく。

最後になりますが、手塚監督、塚本総監督、奥田部長先生、田村球友会会長をはじめ、諸先輩方には多大なるご指導、ご支援をいただき心より感謝申し上げます。今後の同志社大学軟式野球部の益々のご活躍祈っています。

随想

商学部四回生 中妻 朋広

私は就職活動中、大学時代何をしてきたかを考えた時、軟式野球部での活動以外何も出てこなかった。私の大学生活は留学をしたわけでもなく、学業成績も非常に悪く、そのおかげでゼミにも入ることはできず、一学生としてとても褒められたものではなかった。しかし、軟式野球部での経験は本当に濃く、就職活動での面接で話すネタが尽きることはなかった。それは、引退してから改めて入部して良かったと思えた瞬間だった。

入部してからの三年間を振り返ってみると、最初から最後まで肩の痛みに苦しめられた。整形外科に行ったり、筋トレをしたり、全くボールを投げない期間を作ってみたり、様々なことを試行錯誤してきたが、結局最後まで治ることはなかった。一度でいいから、シートノックの最初から最後まで全力で送球をしたかったし、引退するまで外野手として勝負したかったというのは、今でも少し心残りの部分である。

そんな私でも二回生の秋は、レギュラーとして活躍することができた。秋リーグ終盤からスタメンで使ってもらい、西日本大会がかかった順位決定戦では、二本のタイムリーを放ち、チームの勝利に貢献することができた。西日本大会でも三試合すべてフル出場し、ベスト8まで上り詰めることができた。西日本大会のような大舞台でレギュラーとして試合に出られたことは、素直に嬉しかったし、楽しかった。そしてまたこの舞台にレギュラーとして帰ってきたいと強く思った。

しかし三回生になり、一年間通してレギュラーにはなれず、最終的にはベンチにすら入ることもできなかった。この一年間は本当に苦しい一年であつた。とにかく打てなかった。「振ったら凡退してしまう。だったらフォアボールを選んだ方が良い。」と考え、打席で手が出ないことも多々あつた。肩の状態も悪化し、距離の短いファーストですら満足に送球できず、何をしても上手くいかないまま引退してしまつた。正直悔しさや苦しみは大きかつた。しかし、どれだけ打てなくても、投げられなくてもこのチームで野球をするのが楽しかつた。試合に出ていなくても、勝ちたいと心から思えた。少しでも長くこのチームで野球がしたいと思えた。大好きなチームだつた。

とにかく打たない私だつたが、キャプテンの塁は打てない投げられない私を最後まで練習試合で「一番DH」として使ってくれた。普段はすぐに人をイラツとさせるム力つく奴だが、塁に期待していると言われた時は、その都度嬉しく思い、奮起した自分がいた。結果は出せず、情けない限りではあるが本当に感謝している。ありがとう。

思い返せば、野球はもちろん普段の学校生活も遊ぶときも、いつも同期のみんながいた。この四年間を充実させてくれたのは、同期のおかげである。本当にありがとう。

最後になりますが、手塚監督、塚本総監督、奥田部長先生、田村球友会会長をはじめ、多くのOB・OGの皆様から多大なるご指導、ご支援をいただきましたこと、心より感謝いたします。今後の同志社大学軟式野球部のご活躍を心より祈っています。

随想 スポーツ健康科学部四回生 井関 洋輔

私は心から同志社大学の軟式野球部に入部して良かったと思っています。しかし、1、2回生の時は、通常の授業に加えて教職の授業もあり、週1回しか練習に参加できなかったり、練習場所は自宅からかなり遠くかなり交通費がかかったり、遠くに遠征に行つたにもかかわらず試合にほとんど出場せずに試合が終わつてしまつたり、あまり大きな声では言えない理不尽なことがあったりということもあり、K君とは常に部に対する文句を言っていました。そして、何度か軟式野球部を辞めようとも思いました。

そんな腐っていた自分に火をつけてくれたのは同期のチームメイトでした。幹部達が本気で全国を目指している姿や、それに触発されてか、目の色を変えていくチームメイトを見て、自分も最後の1年くらいはこのメンバーの力になりたい、このまま何もチームに貢献することなく大学野球を終えたくないと思うようになりました。一緒に文句を言っていたK君がちやつかりベストナインを受賞し、部の勝利に貢献していたのも頑張ろうと思えた一つの要因だったかもしれません。このような経緯もあって、3回生になってからはK君との会話は文句からチームのことを考えた会話に変わつていった気がします。多分…。会話の内容の変化からも分かるように、野球に対する姿勢が変わると結果も少しずつ変わるもので、2回生まで全くと言っていいほど試合に出ることができなかった私が、春リーグと秋リーグでベストナインを受賞することができました。ベストナ

インを受賞できた時は、少しは軟式野球部の勝利に貢献できた気がして、正直とても嬉しかったです。心残りがあるとすれば、みんなと全国大会に出場したり、西日本大会で勝ち上がっていくことができなかったことです。それでも、西日本大会で負けた後、みんなの前で言つたように、本気で一緒に勝ち上がっていきたい、もっと一緒に野球をしたいと思えるメンバーと出会えたことは、本当に幸せなことだと感じています。

最後になりますが手塚監督、奥田部長、田村球友会会長をはじめ、諸先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。また、これからの同志社大学軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

経済学部四回生 檉尾 紘平

私立大学の体育会野球部に入るのは敷居が高いし、適当な野球サークルに入ろうと思っていた。そして最初に回ったサークルで私は吉積と運命の出会いをした。彼に出会っていなかったら私は軟式野球部には居なかっただろう。彼に付いて軟式野球部の練習に参加し、このレベルなら私でもやっていけるだろうと思い、軟式野球部の門を叩いた。

軟式野球部での活動を振り返ってみると、思い通りにならないことが多かったなと思う。結果はなかなか出ず、チームにあまり馴染めない上に、吉積も退部した。2回生の秋リーグあたりには本当にやめようか悩んだ。でも、そのタイミングで続ける決断をして、肉体改造や自主練習に打ち込めたことは、軟式野球部の活動をしていて自分の良かったことだと思う。

軟式野球部のメンバーを思い出すと感謝の気持ちが溢れてくる。いろんなタイプのメンバーをまとめ、チームの運営に尽力してくれた幹部、部員が活動しやすいように動いてくれたマネージャー、他愛もない冗談を言い合って楽しく練習した同期、底辺から成長して活躍してやるという思いを持っていつしよに自主練した同志、たくさんのことを教えていただいた先輩、先輩に付いてきてくれた後輩、みなさん、本当にありがとうございました。

頼られたがりなので、後輩のみなさんは、野球のことでも、筋トレのことでも、就活のことでもなんでも聞いてきてください。

末筆にはなりますが、奥田部長先生、手塚監督、田村球友会会長、塚本総監督、藤森コーチを始めとする方々には多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

法学部四回生 浅井 悠貴

軟式野球部を引退して半年ちよつとが過ぎ、ようやく野球をしない生活に違和感を覚えなくなった。毎日のように着ていたユニフォームは畳んだまま、グロブは部屋の隅に転がっていた。野球が生活の一部じゃなくなつてグラウンドで会うことは無くなつても、結局就職活動中の空き時間や、バイト終わりの夜も会うのはほとんど軟式野球部の仲間。引退して改めて自分にとって軟式野球部の存在が大きいことに気づかされていた。

私は高校時代のチームメイトの佐藤と高校最後の夏が終わった時からこの軟式野球部に所属しようと話していた。理由は単純、強かったから。高校時代、夏の予選で三年間一度も勝てなかった私にとってはとにかく勝利の二文字が魅力的に見えていた。「軟式野球部に入つて選手として優勝に貢献したい。」しかし、こんな想いは入部してすぐにへし折られた。先輩方はもちろん、同期のレベルの高さに驚いていた。

私は大学からピッチャーを始めた。当然のごとく初めの方は全く結果が出ず、正直野球が嫌いになりそうな時もあった。それでも優しくアドバイスを周りは送ってくれたり、何度もチャンスくれた幹部には心から感謝している。公式戦にも出場することができたし、最後の秋のリーグ優勝の瞬間の輪にも加わることができた。私は勢いのある仲間についていただけだけど、二回生の時の西日本大会ベスト8など、本当にいろんな

景色をみんなと見ることができたし、大好きな野球をもっと好きにさせてくれたみんなに感謝し、いつかまたみんなと野球がしたい。

末筆にはなりますが、奥田部長先生、塚本総監督、手塚監督、田村球友会会長をはじめ諸先輩方には、多大なるご支援を賜りましたことを心から感謝します。何より、家族の支えがあつて、小学校六年生から大好きな野球をここまで続けることができました。この軟式野球部で過ごした四年間は一生忘れることは無いと思います。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご発展を祈念しまして、私の随想とさせていただきます。

随想 スポーツ健康科学部四回生 山本 康平

とりあえず体育会の野球部に入ろうという軽い気持ちで軟式野球部への入部を決心した。高校では軟式野球部に所属していたこともあり、硬式経験者には負けない自信があり、高校の同期である土井と河合と3人でレギュラーをとれたらいいなと密かに考えていた。その後、私より一足先に体験に行った土井が「思っていたよりレベルが高かった。」とビビり倒す姿を見て、私の望みはおそらく叶わないだろうと悟ったことは言うまでもない。

しかし、土井の言葉はあながち嘘ではなく、軟式野球部のレベルは高かった。守備、打撃全てが高校とは比べ物にならず、同期には甲子園に出場した者や高校時代に負けたチームでレギュラーだった者もあり、私も自信を失いかけていた。それでも、そこそこ自信のあった守備をアピールし、秋のリーグ戦、西日本大会のメンバーに選ばれたことは本当に嬉しく、やる気に満ち溢れるようになった。その後もひたむきに努力し続け、真摯に野球に取り組んだ結果、レギュラーとして試合に出場し、ベストナインを2度獲得することができた。自分でもこれほどの結果を残せるとは微塵も思っておらず、努力を続けることの大切さを学んだ。

さて、ここで私と関わりの深い人物を紹介する。まずは、同じ学部の井関洋輔である。彼とは中国語の授業で知り合い、軟式野球部に興味があるということ仲良くなった。それからは同じ授業を受講したりと、ほぼ毎日行動を共にしていた。その中でも特に印象深いことは昼食を食

べる時である。本当に多くのことを語り合った。先輩に対する愚痴、練習に対する愚痴、次いつ雨が降るのかなど、話が尽きなかった。お互い、野球に対する情熱を強く持ち続けていたのだと思う。3回生になり、2人ともレギュラーとして試合に出場し、秋リーグで優勝することができたのは一生の思い出である。

そして、母と祖母である。軟式野球部で2人の存在を知らない人はいないだろう。私が1回生で試合に出場していない時から最後の試合までほぼ欠かさず応援に来てくれた。母と祖母の存在があったからこそ野球を頑張ることができた。この場を借りて感謝を伝えたいと思う。

最後になりますが、手塚監督、奥田部長先生、塚本総監督、田村球友会会長、藤森コーチをはじめ諸先輩方には、多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想 グローバル地域文化学部四回生 佐藤 健太

軟式野球部に入部することは、高校三年の春に決めた。これといったきっかけはなかったのだが、高校野球人生で満足な結果が得られていなかったことに對する悔しさが引き金の一つになったことは間違いない。大学に入っても野球を続けたい、実績のあるチームで自分を磨きたいというような思いと自分のレベルを総合的に判断し、軟式野球部が丁度よいのではないかとという結論に勝手に至ったまでだ。系列校出身の私は、野球部引退後に受験を控えているというようなこともなく、入部に備えた身体作りや練習に充てるための時間は十分にあった。夏の終わりとともにランニングを日課にし、同じく高校から軟式野球部を志していた浅井と自主練に励んでいたことは、今となつてはいい思い出である。

結果はというと、高校と同じくレギュラー争いでは惨敗、控え選手として私の野球人生の幕は閉じた。この結果に對して抱いた悔しい思いや不甲斐ない気持ちを語るときりがないのだが、結果はともあれ軟式野球部に入ったという選択自体は正解だったように思える。というのも、野球にしても私生活にしても、多くの新しい仲間と出会い、その数だけの価値観に触れ、かけがえのない新しい体験に出会えたからである。特に野球に関しては、様々な球歴をもつ人々に囲まれることで、学ばされるが多かったように思う。練習時間や頻度は高校時代に比べ少なかったが、自由度のおかげかこの三年間で野球が少し上手くなった気がする（もちろん絶対評価で）。何がどう上手くなったかは説明することはできないが、

そういう私の起用場所を無理にでも考え続けてくれていた幹部には感謝している。

軟式野球部と聞いて一番に思い出すのは、リーグ戦優勝や西日本大会のことよりも、何気ない練習帰りの食事であつたり、活動外で仲間と遊んだ日常の中の記憶であつたりの方が大きい。体育会の野球部である以上、野球で勝つための集団であるべきだとは思うが、そのような大義名分を全員で共有していく中で得られる野球以外の部分、「付属品」とみなされがちな部分にこそ、体育会で部活動をやる意義が詰まっているのではないかと思う。自分でもよく意味が分からないが、そんな感覚だ。

自由度の高かつた海外のチームで野球を始めた私にとつて、大学まで野球を続けるなんてことは当初は予想もしていなかったことだった。また、同じく自主性を重んじる同志社の軟式野球部で野球人生を終えることができたことは光栄なことであるし、不思議な縁を感じる。引退後、私は休学留学という大きな選択の末日本を離れることになった。こちらでの生活、これから控えている就職活動などもそうだが、軟式野球部で得た知見や物事への取り組み方を活かす機会は文字通り無限に広がっていると信じている。固い随想！

末筆ながら、手塚監督、塚本総監督、田村球友会会長、奥田部長先生、藤森コーチをはじめ私たちの活動を支えてくださったすべての方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

随想

文化情報学部四回生 岩井 勇人

私は、高校時代に野球部をケガと学業成績の低下により辞めました。第一志望である大学に合格したので、この決断には後悔はありませんが、どうしても中途半端で終わってしまった野球に対して未練がありました。そのため、伏見に住み、軟式野球部で再挑戦することを決意しました。高校時代はケガで辞めていたものの、試合には出ていたため、何とかなるのではないかとという気持ちで部活に入りました。しかし、大学生初の練習試合で第一球目を左バッターにレフトスタンドに入れられた時、その気持ちは一気に崩れました。その後も全くコントロールが定まらず、シートバッティングでも練習にならないありさまでした。それでも「アサイワ」とも呼ばれるライバル浅井と共に少しずつありますが、成長できたと思います。

大きな転機になったのがキャプテンの松井のある助言です。それはフォークボールの投球割合を増やすという事でした。試してみると、その投球スタイルがうまくはまりました。おかげで、3回生の春リーグでは短いインニングのリリーフではありますが、チームに貢献することが出来ました。一番印象に残っている試合は、秋季リーグの立命戦です。関西六大学リーグの中で、立命館はライバルであり、この一戦を絶対に落とせない状況の中で、私は先発しました。緊張からか、先頭打者から思うようにいかず、カウントは、ノースリー。正直言つて、チームメイトもそうだったと思うのですが、誰よりも自分が一番これはヤバイと思っていました。頼むと

いう祈りの気持ちで4球目を投じましたが、ボールは無情にも狙った所よりも低めへ。しかし、完全にボールだと思った球が、ストライク判定でした。この神がかった判定により、流れが変わり、この試合3インニングではあります。無失点で抑える事が出来ました。野球は一つ一つのプレーで大きく変わると言われますが、この一球の判定は、生涯忘れる事はないでしょう。このチームに少しでも貢献できているという気持ちは、高校で部活を辞めている僕にとって本当にうれしかったです。自分の為だけでなく、チームの為にプレーをするという事はこの部活に入らなければわからなかった事なので、本当にいい経験が出来たと思います。

この部活に入部して、つらい事や悔しい事はたくさんありましたが、ここまで熱くなれる野球をさせてもらいましたし、一生付き合っていきたい仲間もできたので本当に感謝しています。

最後になりますが、奥田部長、手塚監督、田村球友会会長、藤森コーチをはじめとする諸先輩方の多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

商学部四回生 河合 晃大

初めに私が体育会軟式野球部に入部した経緯をお話していきたい。

私は肩の怪我也有り高校最後の夏の大会をメンバー外で同級生の土井涼太郎や山本康平をスタンドから応援して終わってしまった。元々、実力不足であり、さらに大きな怪我をしていたため大学ではサークルや留学に精を出そうと考えていた。そのため、野球サークルの新歓や体験に参加してみた。しかし、大体のサークルは練習すらしないことを知り、なんとも物足りなさを感じた。サークルに入ったところで暇な時間を持て余すことになるのではないかと思い、それならば下手くそではあるが、逆にまだまだ伸び代がある、もつと上達できると考えた。練習に体験に行つた際に先輩たちの練習の雰囲気が非常に良く、全国制覇を目指して練習する姿を見て、自分も楽しく真剣に野球に取り組むことができると感じ、軟式野球部に決めた。

私は入部して練習における自由度の高さに驚いた。小・中・高と指導者から与えられたメニューや練習方法をミスしないようにこなすような環境とは全く異なりそれぞれの練習に自分が目的を持つて練習する必要があった。この環境が私に野球の楽しさを教えてくれた。バッティングフォームについても自分にはどのスイングが適しているのか、膝を曲げて身体の重心を下げた方が適しているのかなど、練習や日々の素振りですすような癖がついた。このように、自分に適したフォームや打撃理論を知るために情報収集することで、野球に詳しくなるだけでなく、野球を好き

になることができた。野球が好きになれたからこそ向上心を持って頑張れた。特に夜の九時から新町キャンパスの横にある小さな公園でイチヤイチャしているカップルを横目に檜尾紘平と佐藤健太とバットを振り続けた日々は思い出になると同時に良いメンタルトレーニングにもなった。

思い浮かんだままに書いてしまいましたが、後輩の皆さんに伝えたいことが一つあります。それは大学生でも伸び代があり、この軟式野球部には自分を成長できる環境があるということです。確かに中学や高校の時のように身長が伸びたり、身体能力自体が向上することは少ないかもしれない。それでも技術面や走塁における判断の仕方など野球に対する理解を深める機会があると考えます。私もレベルの高いみんなと練習する中で、打ち方や走塁を見たり、聞いたりして非常に勉強になりました。他の部員の技術を盗もうとしたことが、自分の能力の向上になったと考えています。後輩のみなさんもとえチームの中で一番下手くそでも、怪我をしても腐らず様々な方法を試してみたいです。この部にはレベルの高い仲間や対戦相手、試行錯誤する時間と自由さがあるので活用してもらいたい。そして、みんなが野球を好きになれば嬉しいです。

最後になりましたが、手塚監督、奥田部長、塚本総監督、田村球友会会長、藤森コーチをはじめ、軟式野球部関係者の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。この軟式野球部で学んだことを最大限に活かして、社会人生活を立派に歩んでいきたいです。

随想

法学部四回生 片岡 樹紀

まさか中学で野球をやめた自分が大学で野球をやっていると言うことを高校生の自分に言ったら信じないんじゃないかと思います。あの時は本当に野球がやりたくなかったし高校野球特有の環境ではやっていけない、やりたくなかった。とにかく他の何かに熱中しなければならぬと思うた中で陸上競技にお世話になりました。しかし、陸上部を引退した高校生の私は大学ではまた野球がやりたいという謎の感情を持ち出してしまいました笑。それは陸上競技という他のスポーツに触れることが野球の魅力を確認する良い経験になってしまったのです。と言っても陸上競技が面白くなかった訳ではありません。部の第一線でノビノビとやらせてもらった。

私が大学で野球をする条件は2つあった。1つ目は本気でやれる所、2つ目、高校の陸上部の様に自分がノビノビと活動ができ、学生が主体となっている所です。結果は言うまでもありませんが、この軟式野球部が自分の思い描いた部活であり、成長する場所だと思いました。そしてこの軟式野球部で大学生活はお世話になろうと決めました。

入部後に1番大変だったと感じたことは、ブランクを埋める事です。普通に考えてみると他のチームメイトは高校野球でしごかれていた間、私は走ることしかしていなかった。差があつて当然ですよね笑。正直私はなにかなると思っていたし、野球を舐めていた。しかし、いざ本気で取り組んでみると、自分の思い通りに投げることができない、打てないといっ

た自分の頭の中のイメージと身体の動きとのギャップがあつた。ここで初めて約4年間のブランクを感じ、同世代の仲間が特に多いしこれからやっていけるだろうか、試合には出ることはできるのだろうかと不安に駆られた。正直、私はこのブランクを大学生活の3年間で完全に埋めることができたとは思っていません。それほど野球というスポーツは技術、経験が必要になるスポーツだということを痛感しました。そして、この軟式野球部は私を頑張らせるほどレベルや意識が高く、日本一を目指すに恥ずかしいチームだったということです。あとはいい先輩や後輩がいたことだと思います。本当に私は恵まれている環境で野球が出来たことを幸せに感じていますし誇ります。

たればの話にはなるが、私がもし軟式野球部に入っていなかったらどうなっていたのかなと思うことがある。サークルに入つて大学デビューをしてウエイウェイ遊んでいたのか、法学部でバリバリ勉強をして弁護士や公務員を目指していたのかそれは多分ないだろう。見当もつかない。私はこの部活でお金では買えない様な素晴らしい経験をさせてもらったし、将来の自分に必要になつてくるような武器や長所、短所に気づかせてもらったし、支えあつたチームメイトには本当に感謝している。

最後はこれからの抱負になりますが、この軟式野球部で培った全てのことをフルに活かして社会で活躍していきたいですし、後輩達にはまた全国大会に行つて私たちをワクワクさせて欲しいです。

随想

文化情報学部四回生 三輪 駿平

こんにちは。まず始めに監督、部長、会長、また球友会関係者の皆様、軟式野球部への日々のご支援を賜り、感謝しております。

私は正直なところ大学入学当初、体育会に入るつもりは全く無くサークルに入ってウエイウェイする学生生活を送りたいと思っていました。そう思っていた矢先に岩井から練習二時間でめっちゃ楽な部活があるらしいと誘われたこともあり、就職活動で体育会系は有利になるだろうかから一応入っておくのもいいのではといったような緩い気持ちで入部しました。しかし、実際入部してみると聞いていたような緩い雰囲気では全く無く、なんなら固すぎる雰囲気です。正直入部しなかったら良かったと当初思いました。ですが、今振り返るとその固い雰囲気が軟式野球部の良さであり、軟式野球部に入部していなかったらつまらない学生生活を送っていたんじゃないかと思うし、野球の楽しさをもう一度味わうことができたとと思うと入部すると決めたあの時の選択は正解でしかなかったと今思っています。

この軟式野球部での三年半では、夜バイト終わりに素振りをしたり、バツティングの調子が悪いだけで悩み尽くしたりといった野球に真剣に取り組んだ記憶がメインでありつつも、合宿で死にかけた者もいれば、望まずに退部した者もいたり野球とは全く関係のない思い出ができたりと、非常に濃い三年間でした。一つ後悔があるとすれば、最後の試合となつてしまった西日本大会で最後のバッターが自分であったことです。あそこ

で自分が打っていればどうなっていたらうと今でも考えますが、あれはあれで自分らしい終わり方で良かったんじゃないかと思っています。

軟式野球部での三年半という時間の中であった良い思い出や面白い思い出、人には言えない思い出も、悪い思い出も何十年後も同期のメンバーで酒を飲んで笑って懐かし話をできたら最高だろうなと思いますし、これからは同志社軟式野球部のOBとして、胸を張って世界で活躍し、恩返しできたらと思います。四年間ありがとうございました。

随想

経済学部四回生 三木 竜真

普通に考えれば、私が通うことなどあつてはならない同志社大学。皆様ご存知の通り、私は高校時代運よく軟式野球の全国大会でベスト8まで行くことができ、その関連の公募推薦で入学した。とりあえず野球部には入ろうと思っていたが、サークルにも興味があつた。部活動とサークルの掛け持ちは大丈夫だと思っていたので、まずはスノボが好きということもあつてスノボサークルに入つてみた。これが入学して最初のミスであつた。特に中身の無いサークルで好きになれそうな人間がいるわけでもなく、愛想笑いするのに必死で、この先やっていけるのか心配になつていた。そんなある日のこと、軟式野球部の総会で、サークルに入つてはいけないという命令が下つた。その瞬間私は内心ほつとしていた。もう愛想笑いのつらい日々が終わるのだと。後に、私が先輩に笑顔を見せると周りから愛想笑い呼ばわりされていたことはここだけの秘密にしておきたいと思う。

そんなこんなで、少しずつ軟式野球部の仲間とも打ち解けていき、それなりに充実した学生生活を送ることができたのだが、勉強の面で感謝してもしきれないほどの人物が二人いる。松江で一番顔がでかいと恐れられている福田泰之、北陸のイチローこと樫尾紘平である。彼らは私と同じ経済学部なのだが、彼らがいなければ私は間違いなく留年していたに違いない。勉強を通じて親しくなつていき、今ではなかなかの友好関係を築けている。

その他にも、毎年海外旅行をとにもする海メン、松本率いる独断と偏見の会、漢気じゃんけんを生きがいとする漢気メンバー、荒野行動最強戦士軍団い荒野、ライトゴロをとるために生まれてきた男達、RG三銃士など軟式野球部に入部したことによって愉快で楽しい仲間たちに出会えることができた。それが私にとつての一番の軟式野球部の財産である。

野球のことを一切話していませんが、野球の面に関してはそんなに話せることはありません。強いて言うなら最後の西日本大会の時期に、本気でメンバーに入りたいと思い一生懸命頑張りました。その結果、なんとかメンバー入りを果たし、最後の最後に最高の思い出が出来ました。このような思い出が出来たのも、最高の幹部たちのもつてやってこれたからだと思っています。幹部のみんなには頭が上がりません。本当にありがとうございます。

最後となりますが、手塚監督、塚本総監督、田村球友会会長、奥田部長先生をはじめ、諸先輩方には多大なる御指導、御支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。最後となりますが、軟式野球部に入部して本当によかったとこの文章を書いて改めて実感しました。ありがとうございました。

随想

商学部四回生 久野 太陽

ふと、軟式野球部で過ごした日々を思い出し、虚しさを感じることが多々ある。それほど私にとつて、ここで過ごした日々は私の大学生活そのものである。

高校卒業後、一年間の浪人生活を挟み同志社大学に入学した私は二度と野球をすることのない生活を送ると思っていた。そんな、希望に満ち溢れ参加したサークルの新歓で、のちに仲間となる多くの友人に出会い、このみんなと野球がしたいという思いで入部を決めたのが入部のきっかけである。

だが、入部してからの三年間を振り返ると正直苦しいことの方が多かったように思う。自分が最も輝いていたのが1回生の頃であり、それ以降は技術が全く伸びないどころか、むしろ下手になっていく自分に嫌気がさしてばかりであった。また、投げるのが怖くなりいわゆるイップス状態に陥ったこともあった。辞めたいと心から思ったこともあったが、その都度本気で相談につてくれ、「一緒に頑張ろうや」と止めてくれた素晴らしき仲間の存在に幾度となく救われた。個人としては悔しい思いが大きかったにも関わらず、これほどまでに晴れやかな気持ちでいられるのはそんなみんなのおかげである。本当にありがとう。

このチームでのみんなとの思い出をあげればきりが無い。東京遠征や合宿では回を重ねる毎に絆は深まっていたし、何よりよく飲みにいった。大茶番もし続けたし、じゃんけんに全身全霊魂を込め続けたせいで半端

ない集中力を身につけることもできた。まだまだたくさんあるが、本当にこの三年間はあつという間で、とても濃いものだったなと思う。また、素晴らしい先輩・後輩にも恵まれたからこそ、このチームで勝ちたいという思いが本心に強かった。自分がヒットを打つ時以上に、仲間の活躍が本気で嬉しく感じられたし、そんなチームにいられたことが自分の誇りだと思う。だからこそ、春季リーグで全国を逃した時、心から悔しかったしあれを超える悔しさは二度と経験しないだろう。また、連盟委員を任せられたことで、他大学の学生と交流を持つことができ、何より非常に貴重な経験をさせてもらえたことも大きかった。本当に自分を大きく成長させてくれた環境であるし、最高に楽しい環境だった。将来は真剣な話をしているかもしれないけれど、みんなとは変わらず何気なく飲みについて、ふざけていたいな。

末筆になりますが、奥田部長先生、手塚監督、塚本総監督、田村球友会会長をはじめ諸先輩方には、多大なるご支援を賜りましたことを心より感謝致します。今後はOBとして陰ながら応援していくと共に、同志社大学体育会軟式野球部の益々のご発展を祈念しまして、私の随想とさせていただきます。

随想

商学部四回生 小野 駿亮

あつという間だった。白城さんの後輩として入部し、白城さんにビビっていた一回生。気が付けばもう数ヶ月で卒業。今、思い返すと大学生活自体が軟式野球部と言っても過言ではない。高校の時に本当に怖くて正直関わりたくなかった白城さんも今思うと、このような素晴らしいチーム、仲間たちに出会うことができた事は、白城さんがいなければ絶対になかったし、白城さん自身も私の相談に何回も乗ってくれて本当にリスベクトできる先輩だった。

入部当初は、高校でもそこそこ実績を上げ自信はあった。だが一回目の体験練習でレベルの高い先輩と体験に来ていた同期を見て衝撃を受けた。甲子園経験者の松井、高校生の私が届くことができなかった軟式の全国大会にスタメンとして出場した三木、恵まれた体格から何本も柵越えホームランを飛ばしていた浅井、本当に衝撃だった。この実力を見て私はこのメンバーの中でやっていた自信が一気になくなった。しかしその反面、この選手達となら高校の時に果たせなかった全国制覇も狙えると思った。最初はサークルと掛け持ちしているという事であったので、私の入っていた野球サークルのメンバーも入れてやろうと考えた。そこで出会ったのが、田川、安田、海野、久野であった。みんな上手かったので全員勧誘した、気が付くと私たちの代は25人と例年にないだ所帯になっていた。今思うと、あの時みんな入部してくれて良かったと思うくらい、みんな中心メンバーであるし、学校でもこのメンバーを中心に野球部の仲間とい

つも一緒にいた。日々チームに迷惑しか掛けてこなかった私だが、皆が許してくれるのであれば一生の仲間であって欲しい。

また、軟式野球部では多くの人に迷惑を掛けてしまった。朝起きるために飲む薬の副作用で数えきれないほどの遅刻、試合では一球の暴投から敗戦投手ならぬ敗戦捕手と言われイップスを発症、そして何と言っても春合宿の件など、細かいやつまで挙げていたら数えきれない。先輩方をはじめ、同期達や後輩達には本当に申し訳ない気持ちでいっぱいである。

特に春合宿の件についてのが忘れられない、意識を取り戻した当初は自分に何があったかわからなかった、親に事情を聴くと衝撃を受けたのと同時に、「野球部から退部にされるのだろうか」と諦めかけていた。入院して一か月過ぎた頃、病院に同期から手紙が届いた。その中で主将の松井から「俺ら仲間やから誰一人、お前を見捨てないから絶対戻ってこい。」と達筆で書かれていた文字は、今でも忘れられない。その時は本当に本当に嬉しく、一日中病室で号泣していた。この軟式野球部で得られた経験と友人は、一生の財産だ。これからも末永くよろしく願います。

最後になりましたが、塚本総監督、手塚監督、田村球友会会長、藤森コーチをはじめ、多くのOB・OGの皆様の温かいご指導、ご支援を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展を祈念しております。ありがとうございました。

随想

商学部四回生 土井 涼太郎

私は今回卒業するにあたって軟式野球部での活動を振り返り1番自分が成長したなと感じる部分は「自己犠牲」の精神です。私は1回生の6月にゆくゆくは試合に出場し、活躍したいという思いを抱きこの軟式野球部に入部を決意しました。しかし、実際は思うような活躍ができず試合に出場することがままならない状況が続き、自分の軟式野球部における選手としての存在意義を見出せない日々が続いていました。しかし、先輩たちの中で試合に出場できない選手でも仲間のために声を振り絞り応援して、他の選手の成功を自分のことのように喜んでくれる人たちを見て、自分も選手としては活躍できなくても、自分にしかできない役割を持ってチームに貢献したいと思うように心境が変化してきました。その中で2回生の秋の西日本大会において、応援団長を勤めさせていただき、先輩たちにお前がいてくれて良かった。と言ってもらえた時には初めて自分がチームに必要とされた気がして、非常に嬉しかったのが昨日のことのように思い出されます。

私はこの軟式野球部に入部をしていなければ、自分を犠牲にしても組織のために行動したいと思えるようになっていたかという答えはそうではないと感じています。同志社大学体育会軟式野球部に所属し、尊敬できる先輩、頼りになる同期、可愛い後輩たちと出会えて心から良かったなと今ひしひしと感じているところです。またそんな私たちが心置きなく野球に専念できる環境を支えて下さった手塚監督、田村球友会

会長、奥田部長、塚本総監督には感謝の気持ちでいっぱいです。これから社会人になっていくのですが、この軟式野球部で学んだ沢山のことを少しでも活かして、精進していきたいと思います。今までありがとうございました。

随想

理工学部四回生 稲葉 雄大

私は、この軟式野球部に高校からの先輩が居るという事だけで入部しました。しかし一回生の頃、軟式野球部唯一の理系ということもあり授業で中々練習に参加する事が出来ず迷惑をおかけする日々が続いておりました。なので、当時は試合に出たい、勝ちたいと思うのではなく野球がしたいというモチベーションだけで所属しておりました。私は目立ちたがり屋の性格なので大学野球で初めてのポジションであるピッチャーをしました。今まで外野手でプレーしてきた私には刺激が強く毎日が新しい事だらけの経験で楽しかった事を覚えております。しかし、自分が思ったように上手く出来ず最終的には時期主将の松井君に「お前はピッチャーじゃ一生使わん」と言われ外野手に戻されてしまいました。

上回生になるにつれて、同期との仲が深まり後輩を持つ様により昔の頃とは変わり試合に出たい、メンバーに入りたいという気持ちが強くなりました。そんな矢先に私は肩の調子が悪くなり守備練習から外れる日が続く様になりました。自分の強みを失ったと野球へのやる気が一気に損割れました。そんな時に副主将である土井君から励ましの言葉をもらいムードメーカーとしてのポジションを確立する努力をしました。その結果、秋リーグではメンバーに入る事が出来悔いなく続ける事が出来ました。この部活に入部し、お金では買うことの出来ない経験と最高の仲間を手にする事が出来ました。この経験は私の糧になり自身の人生に大きな影響を与えてくれたと感じております。最後に奥田部長、手塚

監督、田村球友会会長、藤森コーチをはじめとする先輩方の多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

H A M U A N I C E D A Y

みなさんどうか充実した日々を過ごしてください。そして同期のみんなには本当に感謝しています。TOGETHER FOREVER

随想

現代社会学部四回生 米田 由理子

中高でソフトボール部に所属していたため、大学では部活をせずに学生生活を送りたいと思っていました。しかし、サークルの見学に行ってもパスとせず、部活の方が自分に合っているような気がし、そんな時に軟式野球部を知りました。一人だけ同志社女子大学でしたが、マネージャー目線で部活をしてみたいと思い、入部を決意しました。

入部した当初は、同期の多さに驚き、名前と顔が全く一致せず、覚えることに一苦労でした。練習に行っても、決まったマネージャー業務をするだけでやりがいもなく楽しくありませんでした。私と安奈は、仕事が遅く、よく先輩方に怒られ、練習中止になることばかり考えていました。けれども、時間が経つにつれて、同期とも自然と仲良くなり、三栖に行けば皆に会えると思つて練習に行っていました。そして、いつもたくさん笑わせてくれる皆のサポートを全力でしたいと思うようになっていました。

3年生になつて色んなことがあり、業務以外に自分にできることは、笑顔でチームに少しでも活気を与えることだと思つていました。けれども、皆の楽しそうな姿や賑やかな笑い声が私の原動力で、いつも元気をもらつているのは自分でした。普段は騒がしいのに、野球になると一人一人がチームのために努力していて、その努力が報われる瞬間は自分のことのよう嬉しかったです。試合に出る選手は限られていたけれど、グラウンドにいる選手も応援する選手も皆が輝いていて、一生懸命にチーム全体

で戦う姿に何度も感極まっていました。大嫌いなスコアを書くことも、不器用なりに取つていた写真も、酸っぱいつて言われるレモンも、とてもドジな私でしたが微力ながらもサポートした時の皆からの「ありがとう」の言葉をもらう度に、自分の努力は結果として目に見えなくても、できることは何でもしようと頑張れました。個性が豊かで面白く、本当に温かい人達ばかりで、仲良くしてくれた同期の皆には感謝の気持ちでいっぱいです。世界一たくさん笑わせてもらったマネージャーだったと勝手に思っています。このチームのマネージャーをすることができて幸せでした。それと、いつも一緒にいた安奈。安奈が同期のマネージャーで良かった、本当にありがとう。

最後になりましたが、塚本総監督、手塚監督、奥田部長、田村球友会会長をはじめ諸先輩方には多大なるご支援ご指導を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

経済学部四回生 石橋 安奈

軟式野球部に入部したのは、ただ野球が大好きで野球に関わりたという単純な理由でした。これまで中・高とバレーボール部にプレーヤーとして所属していた私は、今までは立場が違う、裏方に徹するマネージャーというものを軽く考えていました。そのため、プレーヤーとして活動していたときのような具体的な目標もなく、マネージャーという立場にモチベーションを維持することができませんでした。入部したての頃は覚えることが多かったため、そんなことを考える暇もなく過ごしていましたが、慣れてくると、三栖に行き同じことをしている日々楽しさを感じることもできませんでした。しかし、そんな日々でも三栖までの行き帰りの道でゆりこと商店街のお店に寄り道して話をしたり、あの笑い声を聞くことで元気がもらえました(笑)。暑い日も寒い日も先輩に怒られた日も、一緒にがんばるゆりこの存在に支えられました。

私は、常に選手のこと、チームのことを考えて行動し、楽しそうにマネージャーをしていく先輩方をみて尊敬すると同時に、自分には向いていないと何度か思いましたが、それでも、みんなと仲良くなってきた、話していると楽しくて、みんなが楽しそうな姿を見るのも好きで、みんなやゆりこに会うために部活に行こうって思っていました。

そんなふうに過ごしていると、先輩方が引退され自分たちの代になりました。今までよく2人で行動していましたが、仕事が偏るため効率を考えると別々に行動することも多くなり、責任感も強くなりました。ベン

チに入る回数も多くなり、試合中スコアを書きながらみんなと一緒に喜んで、悔しんだり、感動したりすることがとても楽しくて、やっぱり野球は良いなあって何度も思いました。負けていても最後まで諦めずに声を出し続けて、仲間の活躍を自分のことのように喜んでみんなを見たあの最後の試合は、今でも覚えています。みんなの頑張る姿をみて、少しでも何か自分にできることはないかなあと考えるようになって、誰かの力になれると嬉しくて、また頑張ろうと思えるようになったのは、みんなのおかげです。サポートする側のやりがいや、先を考えて自分で仕事を見つけて行動することなど、今では当たり前だと思えること全てに気付くことができて、マネージャーを経験して本当に良かったです。このチームでマネージャーができて、軟式野球部での3年間は大学生活でかけがえのない思い出になりました。でも、もし生まれ変わるのならマネージャーではなく、男でも女でもいいので小さい頃から自分が野球をしたいなあと思っています(笑)。

最後になりましたが、奥田部長先生、手塚監督、塚本総監督、田村球友会会長をはじめ諸先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

四回生終身成績

打撃成績

	打率	打席数	打数	安打	打点	四死	犠打	盗塁
松井(塁)	0.277	286	231	64	29	53	10	28
松本	0.189	91	79	15	21	9	2	2
茶城	0.129	44	31	4	5	10	1	3
山本	0.320	125	103	33	14	17	6	17
海野	0.111	59	54	6	6	3	2	2
田川	0.220	93	86	19	13	5	3	0
安田	0.200	57	45	9	11	12	0	1
樫尾	0.216	72	60	13	5	8	3	5
井関	0.325	62	43	14	8	19	0	9
福田	0.240	34	25	6	3	5	1	1
河合	0.222	12	9	2	3	3	0	0
三木	0.142	11	7	1	0	3	1	0
片岡	0.142	7	7	1	2	0	0	0
稲葉	0.000	6	6	0	0	0	0	0
中妻	0.178	36	28	5	4	6	1	5
三輪	0.225	187	164	37	19	20	4	6
土井	0.153	26	23	4	3	1	0	0
岩井	0.000	6	5	0	0	1	0	0
浅井	0.000	4	2	0	0	1	1	0
佐藤	0.000	9	7	0	0	2	0	0
小野	0.142	7	7	1	0	0	0	0
久野	0.272	17	11	3	1	6	0	1

投手成績

	防御率	投球回	打席数	打数	被安打	被本塁打	与四死	奪三振	失点	自責
田川	1.73	218	876	794	141	2	68	138	55	42
浅井	3.00	24	100	90	16	0	10	10	13	8
岩井	0.77	35	141	122	15	0	17	17	9	3
松本	2.64	17	73	61	10	0	11	9	6	5
松井塁	0.00	2	8	6	2	0	2	1	0	0

好敵手

2018 年度 秋季リーグ戦

■2018 年 8 月 29 日 VS 立命館大学①

秋①

伊丹スポーツセンター野球場

	1	2	3	4	5	6	7	計
同志社	0	0	6	0	0	1	0	7
立命館	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

※7 回コールド

〔勝利投手〕 田川

〔敗戦投手〕 美馬

〔三塁打〕 井関

■2018 年 8 月 30 日 VS 甲南大学①

秋②

寝屋川公園第 1 野球場

	1	2	3	4	5	6	7	計
甲南	0	1	0	0	0	0	0	1
同志社	0	4	0	0	3	2	×	9

◎成績

※7 回コールド

〔勝利投手〕 岩井

〔敗戦投手〕 岡本

〔三塁打〕 太田 〔二塁打〕 井関

■2018 年 8 月 31 日 VS 関西学院大学①

秋③

小田南公園球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	2	2	0	2	6
関学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

〔勝利投手〕 田川

〔敗戦投手〕 深瀬

〔三塁打〕 片岡 〔二塁打〕 福田、田川、太田②

■2018 年 9 月 6 日 VS 関西大学①

秋④

豊中ローズ野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
関西	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
同志社	0	1	2	0	3	1	0	0	×	7

◎成績

〔勝利投手〕 田川 〔敗戦投手〕 棚木

〔二塁打〕 井関②、樫尾、太田

■2018 年 9 月 13 日 VS 関西学院大学②

秋⑤

寝屋川公園第 1 野球場

	1	2	3	4	5	6	計
関学	0	1	0	0	0	0	1
同志社	1	0	0	2	4	4	11

◎成績

※6 回コールド

〔勝利投手〕 田川 〔敗戦投手〕 深瀬

〔三塁打〕 川端 〔二塁打〕 山本、井関

■2018 年 9 月 14 日 VS 大阪市立大学①

秋⑥

舞洲ベースボールスタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	計
同志社	0	0	4	0	1	3	1	9
大阪市立	2	0	0	0	0	0	0	2

◎成績

※7 回コールド

〔勝利投手〕 田川 〔敗戦投手〕 小野

〔三塁打〕 松本

■2018 年 9 月 19 日 VS 立命館大学②

秋⑦

寝屋川公園第 1 野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
立命館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同志社	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3

◎成績

[勝利投手] 田川

[敗戦投手] 美馬

[二塁打] 三輪

■2018 年 9 月 26 日 VS 関西大学②

秋⑧

太陽が丘球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
同志社	1	1	0	0	0	0	0	0	2
関西	0	0	0	0	0	0	0	3×	3

◎成績

※8 回雨天コールド

[勝利投手] 棚木

[敗戦投手] 田川

■2018 年 9 月 28 日 VS 大阪市立大学②

秋⑨

太陽が丘球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大阪市立	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
同志社	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

[勝利投手] 本田

[敗戦投手] 岩井

■2018 年 10 月 3 日 VS 甲南大学②

秋⑩

伊丹スポーツセンター野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
甲南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

[勝利投手] 田川

[敗戦投手] 岡本

[二塁打] 井上、川端

	大学名	同志社	立命館	関西学院	大阪市立	関西	甲南	勝	負	分
1	同志社		〇〇	〇〇	〇●	〇●	〇〇	8	2	0
2	立命館	●●		●〇	〇〇	〇〇	〇〇	7	3	0
3	関西学院	●●	〇●		〇〇	〇〇	●〇	6	4	0
4	大阪市立	●〇	●●	●●		〇●	〇〇	4	6	0
5	関西	●〇	●●	●●	●〇		●〇	3	7	0
6	甲南	●●	●●	〇●	●●	〇●		2	8	0

～ベストナイン～

投手 田川（同志社）

最優秀選手 田川

捕手 森川（同志社）

最優秀防御率 田川（同志社）0.72

一塁手 高木（大阪市立）

二塁手 松井（同志社）

三塁手 山口（関学）

遊撃手 前田（関大）

外野手 太田（同志社）

井関（同志社）

新森（関大）

2018 年度 秋季リーグ成績

< 打者成績 >

名前	打席数	打数	安打	本塁打	打点	四球	死球	盗塁	犠打	犠飛	打率
山本	34	28	9	0	2	4	0	5	2	0	0.321
三輪	33	28	8	0	8	5	0	3	0	0	0.286
松井	33	23	7	0	2	8	2	4	0	0	0.304
松本	32	27	2	0	7	4	0	2	1	0	0.074
井関	31	21	7	0	6	6	4	5	0	0	0.333
太田	26	20	7	0	5	5	0	5	0	1	0.350
森川	23	16	5	0	6	4	0	0	2	1	0.313
檜尾	21	16	3	0	2	2	1	0	2	0	0.188
田川	15	16	5	0	1	0	1	0	2	0	0.313
福田	12	9	3	0	0	2	1	1	0	0	0.333
川端	11	9	4	0	0	2	0	3	0	0	0.444
平井	8	6	3	0	2	2	0	2	0	0	0.500
海野	4	2	0	0	2	1	0	0	1	0	0.000
安田	6	5	0	0	0	0	1	1	0	0	0.000
天内	5	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0.000
三木	5	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0.000
茶城	5	4	0	0	0	0	1	1	0	0	0.000
久野	5	4	1	0	0	0	1	1	0	0	0.250
楠元	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0.250
片岡	4	4	1	0	2	0	0	0	0	0	0.250
辻村	4	4	0	0	1	0	0	1	0	0	0.000
稲葉	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
中妻	4	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0.000
土井	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
小野	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0.250
河合	4	3	1	0	2	1	0	0	0	0	0.333
岩井	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
井上	3	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0.333
佐藤	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0.000
丸井	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
鷲尾	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000
石橋	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
浅井	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
木崎	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
計	358	284	69	0	49	51	12	35	11	2	0.243

< 投手成績 >

名前	投球回	被安打	被本塁打	奪三振	与四球	与死球	失点	自責点	防御率
田川	50 1/3	24	0	41	6	5	5	4	0.72
浅井	9	4	0	5	0	0	0	0	0.00
岩井	14	6	0	5	4	3	5	0	0.00
木崎	4	1	0	5	1	0	0	0	0.00
松井	2	2	0	1	2	0	0	0	0.00
計	79 1/3	37	0	57	13	8	10	4	0.45

< 失策 >

佐藤	1
岩井	1
山本	2
松本	2
三輪	1
松井	1
計	8

< 捕手成績 >

	盗塁刺	盗塁企画数	盗塁阻止率
小野	1	1	1.000
海野	1	5	0.200
森川	3	5	0.600

< チーム成績 >

試合数	10 試合
打率	0.243
本塁打	0
防御率	0.45
盗塁阻止率	0.450
盗塁数	35
失策	8
犠打・犠飛	13

2018 年度 新人戦

■2018 年 10 月 18 日 VS 甲南大学

伊丹スポーツセンター野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
甲南	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3
同志社	0	0	2	1	0	1	0	0	×	4

◎成績

[勝利投手] 藤本

[敗戦投手] 山口

■2018 年 10 月 19 日 VS 関西大学

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	1	2	0	1	0	0	0	4
関西	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2

◎成績

[勝利投手] 藤本

[敗戦投手] 棚木

■2018 年 10 月 22 日 VS 関西学院大学

伊丹スポーツセンター野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	4	1	0	1	0	0	0	6	0	12
関学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

[勝利投手] 木崎

[敗戦投手] 寺井

第35回 西日本大会

・2018年11月6日 熊本県立大学

1 回戦 リブワーク藤崎台球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
熊本県立	3	0	0	1	0	2	0	0	×	6

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
田川	3	17	62	5	0	2	1	3	3
木崎	5	22	84	5	0	3	7	3	5.4

〈二塁打〉 山本、木崎

第35回西日本大学軟式野球大会 1 回戦は、2018年11月6日熊本県リブワーク藤崎台球場にて行われ、熊本県立大学との対戦となった。同志社の先発マウンドには秋季リーグでも安定した投球を披露したエース田川が上がった。初回、相手の先頭バッターに二塁打を許すとそこから四球、エラーが連続で重なり3失点と主導権を握られてしまう。同志社の反撃は6回表。先頭の山本がセカンドへの内野安打で出塁し、次打者の進塁打で二塁に進むと、4番・井関の打球が相手のエラーを誘い1点を返す。続く7回にも先頭木崎が二塁打で出塁すると、2番・山本のレフトへのタイムリー二塁打でさらに1点を追加。しかし反撃もここまで。4回からマウンドに上がった木崎は毎回三振を奪う力投をするも3失点。ジワジワと差を広げられてしまう。迎えた最終回9回表、木崎、山本のヒットでチャンスを作るが後続が続かず無得点。同志社は初戦敗退となった。



2019 年度 春季リーグ戦

■2019 年 3 月 26 日 VS 甲南大学①

春①

古曽部防災公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	計
同志社	1	1	2	0	1	0	2	7
甲南	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

※7 回コールド

[勝利投手] 木崎 [敗戦投手] 山口
[本塁打] 木崎、川邊 [二塁打] 木崎

■2019 年 3 月 26 日 VS 大阪市立大学①

春②

鴻ノ池球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
大阪市立	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
同志社	0	0	0	0	0	5	1	0	×	6

◎成績

[勝利投手] 木崎 [敗戦投手] 谷口
[二塁打] 太田、平井、丸井

■2019 年 4 月 2 日 VS 関西大学①

春③

古曽部防災公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
関大	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
同志社	1	1	0	0	1	0	0	0	×	3

◎成績

[勝利投手] 木崎 [敗戦投手] 棚木
[二塁打] 楠元、川端

■2019 年 4 月 3 日 VS 関西学院大学②

春④

寝屋川公園第 1 野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	1	2	0	1	0	4
関学	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3

◎成績

[勝利投手] 藤本

[敗戦投手] 藤原

[二塁打] 天内

■2019 年 4 月 5 日 VS 立命館大学①

春⑤

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
立命館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◎成績

[勝利投手] 木崎

[敗戦投手] 栗山

[二塁打] 川端

■2019 年 4 月 8 日 VS 大阪市立大学②

春⑥

寝屋川公園第 1 野球場

	1	2	3	4	5	計
同志社	3	3	0	5	0	11
大阪市立	0	0	1	0	0	1

◎成績

※5 回コールド

[勝利投手] 藤本

[敗戦投手] 村山

[三塁打] 太田、松井壘、天内

[二塁打] 平井、川端、森川

■2019 年 4 月 12 日 VS 関西学院大学②

春⑦

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	計
関学	0	0	0	0	0	0	0	0
同志社	4	0	0	1	0	3	×	8

◎成績

※7 回コールド

[勝利投手] 木崎

[敗戦投手] 笠崎

[二塁打] 天内、楠元

■2019 年 4 月 15 日 VS 甲南大学②

春⑧

寝屋川公園第 1 野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
甲南	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
同志社	1	0	0	2	1	3	0	0	0	7

◎成績

[勝利投手] 藤本

[敗戦投手] 山口

[三塁打] 太田②、川端

■2019 年 4 月 16 日 VS 立命館大学②

春⑨

古曽部防災公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
立命館	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	4
同志社	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	6

◎成績

※10 回タイブレーク

[勝利投手] 木崎

[敗戦投手] 美馬

[本塁打] 太田 [二塁打] 楠元

■2019 年 4 月 18 日 VS 関西大学②

春⑩

寝屋川公園第 1 野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	3	1	0	0	0	1	5
関大	1	0	0	1	4	0	0	0	×	6

◎成績

[勝利投手] 棚木

[敗戦投手] 松井龍

[二塁打] 横橋

	大学名	同志社	立命館	関西	関西学院	大阪市立	甲南	勝	負	分
1	同志社		○○	○●	○○	○○	○○	9	1	0
2	立命館	●●		○○	○○	○○	○○	8	2	0
3	関西	●○	●●		○○	○○	○○	7	3	0
4	関西学院	●●	●●	●●		○○	○●	3	7	0
5	大阪市立	●●	●●	●●	●●		○○	2	8	0
6	甲南	●●	●●	●●	●○	●●		1	9	0

～ベストナイン～

投手 木崎（同志社）

捕手 佐藤（関西）

一塁手 浜島（関西）

二塁手 上西（立命館）

三塁手 松井塁（同志社）

遊撃手 平井（同志社）

外野手 太田（同志社）

川端（同志社）

濱野（甲南）

最優秀選手 木崎

首位打者 松井塁 , 440

盗塁王 太田 11 個

最優秀防御率 木崎 0, 44

奪三振王 木崎 48 個

2019 年度 春季リーグ成績

< 打者 >

名前	打席数	打数	安打	本塁打	打点	四球	死球	打率
太田	41	28	9	1	6	10	3	0.321
森川	38	25	5	0	4	9	0	0.200
松井塁	36	25	11	0	7	9	0	0.440
平井	36	28	8	0	7	5	2	0.285
川端	34	30	10	0	6	4	0	0.333
楠元	30	28	9	0	4	2	0	0.321
鷺尾	28	24	3	0	3	2	0	0.125
天内	26	20	5	0	2	5	0	0.250
木崎	23	21	2	1	3	2	0	0.095
丸井	12	12	3	0	2	0	0	0.250
古谷	11	9	1	0	1	1	0	0.111
川邊	10	9	1	1	2	1	0	0.111
辻村	8	8	1	0	2	0	0	0.125
藤本	7	4	0	0	0	0	0	0.000
上月	4	3	0	0	0	0	1	0.000
長	4	4	1	0	1	0	0	0.250
井上	4	3	0	0	0	1	0	0.000
吉田脩	4	4	0	0	0	0	0	0.000
古川	3	3	0	0	0	0	0	0.000
横橋	3	3	1	0	0	0	0	0.333
吉田旭	3	2	1	0	0	1	0	0.500
水田	1	0	0	0	0	0	1	0.000
田川	1	1	0	0	0	0	0	0.000
合計	367	294	71	3	50	52	7	0.241

< 投手 >

名前	登板数	投球回	被安打	被本塁打	奪三振	与四球	与死球	失点	自責点	防御率
木崎	9	51・1/3	17	2	48	9	1	7	3	0.53
上月	5	9・2/3	6	0	4	5	0	4	3	3.00
藤本	4	17	8	0	9	3	0	2	1	0.52
松井龍	1	0・1/3	1	0	0	3	0	4	4	108.00
田川	1	3・2/3	4	0	0	2	0	0	0	0.00

チーム打率 0.241

チーム防御率 1.21

盗塁阻止率 0.125

盗塁数 33

失策 11

犠打・犠飛 15

得点 60

失点 17

< 捕手 >

名前	許盗塁	刺盗塁	盗塁阻止率
森川	7	1	0.125

< 野手・失策 >

平井	3
川端	2
丸井	2
森川	2
楠元	1
鷺尾	1

2019 年度全日本大学軟式野球選手権大会

・2019 年 8 月 19 日 VS福山平成大学

1 回戦 長野オリンピックスタジアム

	1	2	3	4	5	計
同志社	1	0	0	5	0	6
福山平成	0	0	0	0	0	0

※雨天コールド

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
田川	5	21	76	3	0	1	5	0	0

〔二塁打〕 太田 〔三塁打〕 天内

2019年度全日本大学軟式野球選手権大会の初戦は長野オリンピックスタジアムにて、福山平成大学との対戦となった。対戦相手の情報も全くなく、緊張と不安が入り混じる中、初回先頭の太田が二塁打でチャンスを作ると、3番松井(塁)がヒットでつなぎ、5番天内がライトへ犠牲フライを放ち幸先よく先制に成功する。先発の田川は安定感抜群で3回まで無安打に抑え流れを引き寄せる。

そして4回、森川がヒットを放つと2アウトとなるもそこから4者連続四球。満塁の場面で5番天内が勝負強さを発揮し、走者一掃の適時三塁打を放った。

その後も田川は危なげない投球で5回まで投げ終える。ここで雨脚が強くなり中断の時間も取られたが、最終的に雨天コールドとなり、6対0で勝利。駒澤大学との2回戦へ駒を進めた。



2019 年度全日本大学軟式野球選手権大会

・2019 年 8 月 21 日 VS駒澤大学

2 回戦 県営長野野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
駒澤	0	0	0	0	0	1	0	0	1
同志社	1	1	0	0	0	4	0	2×	8

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
下川	5	19	61	4	0	1	2	0	0
坂東	3	12	46	2	0	1	4	1	3

〔二塁打〕 丸井、片桐②

2回戦は県営長野野球場にて駒澤大学と行われた。同志社はまたも初回、丸井のヒット、その後四球でチャンスを広げ相手のエラーで先制する。続く2回、四球で出たランナーを9番片桐の適時二塁打で追加点を取ることに成功する。この日の先発は公式戦初登板の1回生、下川。堂々とした投球で5回まで無失点に抑える。6回にも4点を追加し迎えた8回、あと1点取ればサヨナラコールド勝ちの場面で代打、辻村。見事に2球目をピッチャー前にはじき返した。軟式特有の秘技・叩きでランナーを生還させサヨナラコールド勝ちを収めた。先発の下川、リリーフの1回生坂東も好投、9番片桐の2本の二塁打など新戦力の活躍が多く見られた試合だった。続く3回戦、前年王者の東北福祉大学との試合に駒を進めた。



2019 年度全日本大学軟式野球選手権大会

・2019 年 8 月 23 日 VS東北福祉大学

3回戦 長野オリンピックスタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
東北福祉	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
同志社	1	0	0	0	0	0	0	1	1×	3

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
田川	9	40	139	9	0	6	6	2	2

〔二塁打〕 太田

3回戦は前年王者の東北福祉大学との対戦となった。この大一番での先発は絶大な信頼のおける田川。この日も安定した投球で立ち上がりから2三振を奪うなど好投が光る。初回の攻撃、先頭の太田が二塁打で出塁すると、送りバントで三塁へ進み、勝負強い松井(塁)に打席が回る。2球目を完璧に捉え、どうしても欲しかった先制点を奪う。しかし4回、四球を挟み4連打を浴びるなど2点を奪われ逆転を許してしまう。しかしその後はなんとか凌ぎ投手戦へ。迎えた8回、前年から主戦投手でもある速球派の見上がマウンドに上がる。先頭がヒットで出塁し送りバント、エラーで1死三塁へ。ここで先制点を叩き出した松井(塁)へ打席が回る。3球目を捕らえた打球は相手三塁手が弾きエラーとなり同点に追いつく。9回の表を田川が完璧に抑え、サヨナラ勝ちへと勢いに乗る同志社ベンチ。1死から四球、内野安打、エラーで満塁のチャンスを作ると、ここで2番・丸井。初球、三遊間へ高いバウンドのゴロ。ショートが一塁へ投げるも間に合わず、サヨナラタイムリー内野安打。ここまで3犠打と自分を犠牲にしてきた男が勝負を決めた。この勝利でベスト4へ名乗りを上げた。



2019 年度全日本大学軟式野球選手権大会

・2019 年 8 月 24 日 VS桐蔭横浜大学

準決勝 長野オリンピックスタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	1	0	0	3	0	0	0	0	0	4
桐蔭横浜	1	0	0	0	1	0	3	0	×	5

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
田川	6	29	91	9	0	2	3	4	6
下川	1	3	14	0	0	0	0	0	0
坂東	1	5	14	1	0	1	1	0	0

〔二塁打〕 松井、天内②

迎えた準決勝、相手は強豪・桐蔭横浜大学だ。第2試合、勝てば決勝と緊張感が漂う中、試合が始まる。初回、死球で出たランナーを3番・松井(塁)が適時二塁打で返し幸先よく先制する。しかしその裏、先発田川が3連打を浴び同点に追いつかれてしまう。4回、天内と楠元の連打で1死1, 3塁とすると7番・星野の内野ゴロの間に1点を勝ち越す。続く9番・片桐も2点タイムリーを放ち、3点差と着実に点を積み重ねる。しかし、5回に2死からの中前安打を後逸し、ランニングホームランとなり1点を返される。そこから同志社も追加点を奪うことができず、7回、先頭に死球を与えてしまうと、3連打を浴び3点を取られ逆転を許してしまう。しかし、回の途中からマウンドに上がった下川が相手に流れを渡さず、3人斬りで追加点を許さない。迎えた最終回、上位に回る好打順だったが、変わった相手投手に3人で抑えられ試合終了。同志社は準決勝で敗れベスト4という結果に終わった。



MEMORIAL SNAP



松井壘 # 10

茶城和也 # 61



松本惇志 # 2

MEMORIAL SNAP



田川勇貴 # 47

安田将史 # 7



三輪駿平 # 5

MEMORIAL SNAP



岩井勇人 # 20



樫尾紘平 # 51



河合晃大 # 38

MEMORIAL SNAP



山本康平 # 4



井関洋輔 # 33



福田泰之 # 58

MEMORIAL SNAP



土井涼太郎 # 1

中妻朋広 # 6



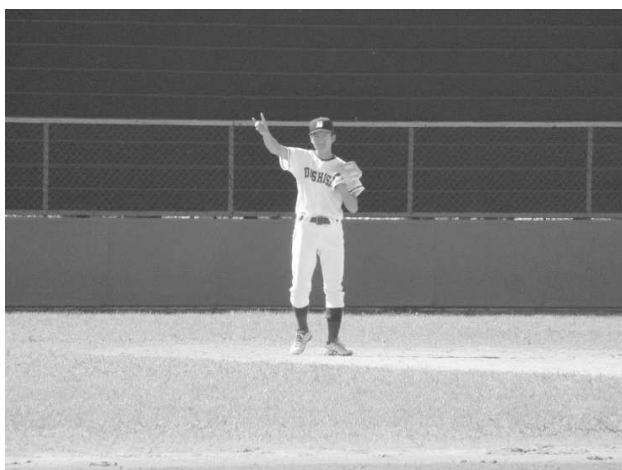
小野駿亮 # 24

MEMORIAL SNAP



久野太陽 # 8

片岡樹紀 # 13



稲葉雄大 # 3

MEMORIAL SNAP



佐藤健太 # 37



三木竜真 # 99



浅井悠貴 # 11

MEMORIAL SNAP



海野智洋 # 42

米田由理子



石橋安奈

全日本大学軟式野球連盟概要

1)名称

全日本大学軟式野球連盟

2)代表

会長 不在（代行）松下 聡、北村 孝嗣

3)設立

昭和 53 年

4)事務局

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-27-7 軟式野球会館 5F

TEL 03-3401-0824 FAX 03-3401-1842

5)加盟連盟(23 連盟)

北海道地区大学軟式野球連盟、奥羽地区大学軟式野球連盟、東北地区大学軟式野球連盟、北関東大学軟式野球連盟、東京六大学軟式野球連盟、東都大学軟式野球連盟、首都大学軟式野球連盟、東関東大学軟式野球連盟、南関東大学軟式野球連盟、関東新大学軟式野球連盟、東京新大学軟式野球連盟、東海学生軟式野球連盟、長野県大学軟式野球連盟、新潟地区大学軟式野球連盟、北陸地区大学軟式野球連盟、近畿学生軟式野球連盟、関西六大学学生軟式野球連盟、西都大学軟式野球連盟、京滋大学軟式野球連盟、中国地区大学軟式野球連盟、四国地区大学軟式野球連盟、九州地区大学軟式野球連盟、沖縄県大学軟式野球連盟

2019年 10 月 1 日現在

以上

全日本大学軟式野球連盟(公式ホームページ)<http://www.junbf.jp/>より引用

軟式野球は日本発祥のスポーツであり、現在、国内において多くの競技人口を抱えている。また、国内だけでなく世界でもアジアや中南米諸国へと競技の輪は広がりつつある。ルールは硬式野球と同じではあるが、そのボールの特徴から攻撃、守備そして戦術において大きな差が存在することが軟式野球の魅力である。

その母体となる全日本大学軟式野球連盟は、全日本選手権大会、西日本大会、東日本大会を主催するだけでなく、毎年海外で国際大会を実施することにより、軟式野球の発展と普及に貢献している。

大学軟式野球の目標として、技術の向上、チームの勝利に留まらず、野球を通じて健全な精神豊かな人間性の育成を挙げている。今後、軟式野球を通じて全国の学生が成長し、全日本軟式野球連盟を盛り立て、よりよい連盟が築かれることを切に願っている。

連盟委員 藤本 修成

同志社大学体育会軟式野球部規約

第1章 総 則

第1条(名 称)

本部は同志社大学体育会軟式野球部と称する。

第2条(目 的)

本部は同志社大学体育会の一員としての自覚と誇りを持ち、体育会、連盟および会員相互の親善・交流を通じて、スポーツマンとして健全なる人格を形成し、心身ともに向上することを目的とする。

第2章 組 織

第3条(組 織)

本部は第1章第2条の主旨を積極的に賛同する学生によって組織される。また、運営にあたり、下記の機関を設ける。

- 1、総会
- 2、幹部会
- 3、役員会

第3章 部 員

第4条(資 格)

本部員たる資格は同志社大学或いは同志社女子大学の学生で所定の部費を納入し、本部の主旨に賛同する者のみに与えられる。尚、硬式野球部、準硬式野球部並びにサークル、外部野球団体に所属する者には資格を与えない。

第5条(義 務)

第1項 本部員は本部の向上発展に寄与し、所定の部費を完納する義務を負う。

第2項 本部員は総会および諸行事に積極的に参加、出席する義務を負う。

第6条(入 部)

入部希望者は、入部届の提出を以て正式入部とする。中途入部希望者は、監督と幹部会の承認を得て入部可能とする。また中途入部者は、入部届の提出月より部費を納入する義務が発生する。

第7条(長期休部)

長期休部は、病気その他の事情により、幹部会がその理由を正当とみなし、休部届を提出した場合において承認する。尚、長期休部中は部費の納入義務を負わない。

第8条(除 籍)

本部員において、次の各項に該当する者は、幹部会において審査し、退部を命ずることができる。

第1項 無届長期休部したる者。

第2項 所定期間によって無届で部費を納入せざる者

第3項 本部規約に違反し、本部の品位を乱したる物

第9条(再入部)

退部を命ぜられた者が自ら反省し、自らの人格と品位を完全に回復し、その信用性が認められた者にのみ、役員会で審査し、これを認めることができる。

第10条(自主退部)

何らかの理由で、自主退部を希望する者は、退部届の提出を以て退部とみなす。また、退部届の提出月までは部費を納入しなければならない。

第4章 役員

第11条(定款)

本部は次の役職を置く。

主 将 1名

副 将 1名以上

主 務 1名

会 計 1名

連 盟 1名

渉 外 1名

合 宿 1名

ホームページ 1名

新球友 1名(兼務可)

第12条(任期)

役員の任期は原則1年とし、前幹部・前役員会からの指名もしくは幹部会・役員会の話し合いで各職を決定する。

第13条(体育会本部委員)

同志社大学体育会本部からの要請があった場合、臨時職として、体育会本部委員を選出する・任期は年数に限らず、最終学年までとする。

第5章 役員の任務

第14条(主 将)

主将は、本部を代表し、本部に関する全ての事項を責任もって遂行する。

第15条(副 将)

副将は、全面的に主将を補佐し、主将不在中は役務を代理遂行する。

第16条(主 務)

主務は、諸行事の運営、OBとの連絡、スポーツ支援課・体育会本部・他クラブ等との接触、各役職の補佐、及び決定事項を承認する。

第17条(会 計)

会計は、本部の金銭出納の管理に関する全てを責任もって遂行する。

第18条(連 盟)

連盟は、関西六大学学生軟式野球連盟に関する全ての事務を行い、総会に出席し、その決議を全部員に報告する。

第19条(渉 外)

渉外は、練習グラウンドの確保を遂行する。

第20条(合 宿)

合宿は、合宿や遠征に関する交渉を遂行する。

第21条(ホームページ)

ホームページは、本部のホームページの管理を遂行する。

第22条(新 球 友)

新球友は、「新球友」製作に関する全ての事務を行う。

第6章 総 会

第23条(権 限)

総会は最高意思決定機関であり、規約の改正、会計報告の承認、その他本部全般に関わる重要事項を決定する。その際、原則的に全部員の出席を必要とする。

第24条(招 集)

総会は定例総会として年2回、春季・秋季シーズン終了時に開催する。但し、部員または幹部会の要望がある場合は、臨時総会を開催できる。

第7章 幹 部 会

第25条(権 限)

幹部会は、本部の執行機関であり、責任をもって本部の運営にあたる。

第26条(構 成)

幹部会は、主将、副将、主務、会計、連盟で構成される。

第8章 役 員 会

第27条(役 員 会)

役員会は、本部の活動を円滑に行う上で、役員が必要としたとき召集される。

第28条(構成)

役員会は、主将、副将、主務、会計、連盟、渉外、合宿、ホームページ、新球友で構成される。
(体育会本部委員が存在するときは、それも含む)

第9章 部 費

第29条(納入)

部費は月納とする。選手は月額 2,000 円、マネージャーは月額 1,000 円とする。また納入期間は、2 月から 11 月までの 10 か月間とする。但し、1 年次生の新入部員は 6 月から納入開始とし、4 年次生は 5 か月分を納入することとする。

第30条(金額の改定・追加)

金額の改定追加は、全部員の承認を得なければならない。

第10章 部長・監督・コーチ

第31条(権限)

本部は、部長・監督・コーチを置き、本部の学生を中心とする活動に対して、適切な助言を与える。

第32条(部長)

部長は、同志社大学教授より、選出、依頼し大学長からの委嘱により就任する。尚、教授不在の場合、体育会の承認があれば、その限りではない。(1 名)

第33条(監督)

監督は、同志社大学体育会軟式野球部 OB 会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(1 名)

第34条(コーチ)

コーチは、同志社大学体育会軟式野球部 OB 会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(複数名可)

第11章 規約の改正

第35条(規約の改正)

本部の規約の改正は、幹部会において検討し、総会において出席者の 3 分の 2 以上の賛同を得なければならない。

第12章 付 則

第36条(施行)

本規約は、平成 28 年 7 月 30 日よりこれを施行する。

公式大会登録に関する規定

第一章 公式大会の種類

第1条 本連盟の主催する下記の大会を公式大会とする。

1. 春、秋期リーグ戦
2. 新人戦
3. その他本連盟の定めた大会

第二章 公式大会出場資格

第2条 出場するにあたっては、本連盟規約に定める会員でなければ出場できない。なお、選手登録は、リーグ戦開始一週間前とする。

第三章 規律違反チーム又は選手の処置

第3条 公式大会出場チーム又は選手が下記各号に該当するときは連盟委員の合議により相当の処置を行う。但し、ここの選手の違反はチームの責任とする。

1. 不正登録チームの出場

イ 試合中発見された場合は相手方に勝利を与える。

ロ 試合終了後に発見された場合も相手方に勝利を与える。

ハ 優勝決定戦終了後に発見された場合は準優勝者を優勝者とする。

2. 軟式野球規則に対する違反

軟式野球規則に従い審判員のくだしたいかなる判定に対しても服従しないもの。

3. 大会秩序を乱し、その進行を妨げる行為

軟式野球の正しい発達を阻害するような言動を行い、大会の進行を妨げる行為をしたもの。但しその行為をしたものがそのチーム又は選手の関係者であってもこの規定は準用する。

4. 放棄試合

放棄試合をした場合は相手方に勝利を与える。

第四章 出場人員

第4条 各学校は主将を含めた競技者によって編成し、主将は10番を付けこれ以外の選手の抗議は一切認めない。

第五章 服装

第5条 選手は必ず同一のユニフォームを着用すること。これに反した者は出場できない。又ズックの使用も禁ずる。負傷等によりやむを得ず使用する場合は主審の許可を得ること。

第6条 各選手は試合に臨むにあてってすべて学生服及びグラウンドコートを着用の上球場に集合すること。

尚連盟会議及び納会などの連盟行事のある際も上記のと通りの服装を持って集合することを厳守すること。

第六章 リーグ戦

第7条 順位は各校2回総当たりの勝ち点制によって決する。(1勝…勝点2、1分…勝点 1、1敗…0) 勝ち点同数の場合は、1位、2位だけで決定戦を行う。決定戦は1試合のみ行う。2位以下同数の場合は当事者間の対戦成績により決定する。

第8条 試合は9回戦とする。

第9条 日没及び降雨コールド試合は5回終了後とする。

第10条 本連盟ではコリジョンルールを適用する。

第11条 全試合終了後記録の優れていた者に対して下記の賞を与える。

最高殊勲選手賞 最優秀選手賞 最優秀新人賞(新人戦)

首位打者(規定打席数25) 打点王 盗塁王

最優秀防御率賞(規定投球回数36) ベストナイン

第七章 新人戦

第12条 新人戦は各校によるトーナメント戦によって優勝を決する。

第13条 試合は9回戦とする。

第14条 新人戦は年1回行うものとする。

第八章 付記

第15条 本連盟により開催される各試合は審判に絶大なる権限をあたえるものとする。

第16条 グランド内に於いては一切の暴力行為を禁ずる。これに反した場合は厳重の処罰をあたえる。

第17条 捕手は原則として、事故防止のため、レガース、マスクの着用を義務づける。

球友会 各位

秋冷の喉、先輩諸兄におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。球友会の皆様には球友会会費など多大なる経済的ご支援を賜り、部員一同感謝しております。

昨年、松井主将の下で迎えた春リーグ戦は、関西大学、立命館大学に敗れ8勝2敗で2位となり全国大会に出場するという目標を達成することが出来ませんでした。

その悔しさを晴らすべく、1回生という新戦力が加わり臨んだ秋リーグでは初戦の立命館大学にコールド勝ちを収め、7連勝と好調なスタートを切りました。その後2敗を喫してしまいましたが、迎えた最終戦、甲南大学に勝利、見事優勝を果たし、1位通過で西日本大会への切符を掴み取りました。そして熊本県で開催された西日本大会では初戦の熊本県立大学に惜しくも敗れ、悔しい結果となってしまいました。

先輩方の想いを継いで新たに平井主将の下で全国大会に出場すべく練習を開始しました。春休み期間の練習量を普段の倍に増やし、宿敵である立命館大学を倒すべく、合宿、練習試合と野球漬けの日々でありました。

そんな中始まった春リーグ戦では開幕から8連勝、優勝が懸かった第9戦の立命館戦では劇的なサヨナラ勝ちで勝利を収め、全国大会への出場を果たしました。

そこから新たに1回生が加わり、全国大会へ向けチームが再出発しました。「全国制覇」を目標に迎えた全国大会では1回戦、2回戦と勝利し迎えた3回戦で昨年全国優勝を果たした東北福祉大学を撃破することができました。惜しくも次戦の桐蔭横浜大学に惜敗し、ベスト4という結果に終わりました。

全国大会直後に始まった秋リーグでは、疲労が溜まった状態でのスタートで厳しい戦いが続きながらも9連勝と良い流れでしたが、最終戦の立命館戦でコールド負け、得失点差で優勝を逃し2位という結果に終わりました。現在、西日本大会優勝を目指して日々練習に励んでおります。

この文章が皆様の目に入る時には、良い報告が出来るように精進して参りたいと思います。

このように私達、現役部員一同が野球に打込めているのも、先輩諸兄の多大なるご支援のおかげであります。部員一同感謝申し上げます。ご支援に報えるよう、日々の練習に精進し、最高の結果を目指す所存であります。

今後とも部員一同、体育会軟式野球部のさらなる発展のため、なお一層の努力を重ねてまいります。その中で、先輩諸兄のご協力を頂くこともあるかと存じます。何卒私たちの考え方にご理解、ご協力をお願いしますとともに、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

軟式野球部主将 平井 隆太

同志社大学体育会軟式野球部球友会会則

2017. 11. 25 改定、2018. 4. 1 施行

第1章 総則

- 第1条 本会は、同志社大学体育会軟式野球部OB OG会とし、「球友会」と称する。
- 第2条 本会は、OB OG相互間及びOB OGと現役学生部員との親睦を図り、同部及び同会発展の推進に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は、同志社大学体育会軟式野球部とその起源となる同好会に所属していた者をもって組織し、「球友会会員」と称する。

第2章 事業

本会は、第1章第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 同志社大学軟式野球部に対する後援
2. 総会、懇親会の開催
3. 同志社大学に対する後援
4. その他、目的達成に必要な事業

第3章 役員

第1条 本会は、次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 1名以上

第2条 役員の任務は、次の通りとする。

1. 会長：会の代表として、会の運営に責任を持つ。また、総会においては議長を務める。
2. 副会長：会長を補佐し、会の運営にあたる。また、会長がその任務を務めることができないときは、その代わりを務める。

第3条 役員の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第4条 役員の任期は2ヶ年とし、再選を認める。

第5条 役員が何らかの事情により、任期の途中で交代せざるを得ない場合は、役員会に一任する。（第8章の条項に従う）

第4章 監査役

第1条 本会は、監査役を1名以上置く。

第2条 監査役は本会の会計監査を行い、その結果を総会で報告する。また、会則が適正に運用されていることも監査し、必要に応じてその結果も報告する。

第3条 監査役の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第4条 任期は2ヶ年とし、再選を認める。

第5章 球友会事務局

第1条 本会は、「事務局」を置き、当会の運営全般と学生との調整役を務める。

第2条 事務局には、会長の指名により、球友会会員の中から事務局長1名と事務局員数名を置く。

第3条 事務局長は、会長の指示により、事務局業務全般を指揮し、その責任を負う。また、その業務内容については、必要な事項があれば適宜総会等で報告することとする。

第4条 事務局員は、事務局長の指示により、本会の総務と会計業務を行う。

第5条 会計担当は、総会で球友会に関する収支や会費等の使途を報告しなければならない。

第6条 事務局長は、総務又は会計担当業務を兼務することができる。

第7条 事務局長と事務局員の任期は2ヶ年とし、再任することもできる。

第6章 その他の役職

第1条 本会には第3、4章に定めた役職以外に以下の役職を定める。

1. 顧問 必要に応じて設定
2. 幹事 各年代1名

第2条 顧問への就任、任務等は以下の通りとする。

1. 本会の運営等について球友会会員のほか、特に必要と認められる者が就任することができる。
2. 就任には総会の承認を必要とする。
3. 本会の運営等について助言等を行う。
4. 任期は2ヶ年とし、再任することもできる。

第3条 幹事への就任、任務等は以下の通りとする。

1. 各卒業年度生から1名選出し、その選出には各卒業年度生に一任する。
2. 任期は定めない。しかし、交代するときは必ず事務局に報告しなければならない。
3. 幹事は、球友会会員間の連絡の中心を務め、円滑な本会の運営に努めなければならない。
4. 4回生は卒業する年度末までに事務局に届け出なければならない。
5. 会長が必要と認めたときは、幹事会を開催することができ、積極的な参加が求められる場合がある。

第7章 総会

第1条 総会は年2回、現役学生の春季、秋季リーグ終了後に開催する。

第2条 会長が必要と認めたときは、第1条の他に臨時に開催することができる。

第3条 総会は次のことを報告、審議決定する。

1. 事業報告（会計報告）
2. 重要案件の決定
3. 役員の選出
4. 会員の入会、退会
5. 会則の改廃および追加
6. 軟式野球部の活動報告
7. その他必要と認められる案件

第4条 総会での決定事項には、その球友会出席者の過半数を必要とする。

第5条 総会での決定が時間上間に合わない場合は、役員会に一任し、後日総会で報告しなければならない。

第6条 総会には現役学生も参加し、球友会会員と相互の親睦を図ることとする。

第8章 役員会

第1条 役員会は、本会役員で構成し、本会の執行機関として責任もってその運営にあたる。

第2条 役員会は、第7章第3条の項目以外の審議事項及び同章第6条の状況において、決定権を有する。

第3条 役員会での決定は、全会一致とする。

第4条 何らかの事情により、役員会がその機能を果たせない場合は、その機能が回復するまでの間、監査役と事務局が、その代行を務めることとする。

第9章 会費

第1条 球友会の会費は、球友会会員1名につき、年間6,000円とする。

第2条 第1条以外にも臨時に特別寄付を徴収することがある。

第3条 会費は、以下の項目に関することに使用する。

1. 軟式野球部の活動支援
2. 球友会の公式行事及びそれに類するもの
3. 第10章第1条及び第2条の事項
4. その他球友会活動に関すること

第10章 その他

第1条 球友会会員による同志社ユニオンや大学、諸連盟主催の公式行事や会議等への出席について、主要駅間の交通費に関しては役員会でその内容を検討のうえ、球友会より支援する。なお、宿泊費その他関連する費用については、原則適用外とする。

第2条 球友会会員死亡時は、役員会で協議の上、球友会より相応の対応を行う。詳細は以下の通りとする。

1. 原則対象は、本会及び軟式野球部の役職に就いている者とする。
2. 上記の一親等にあたる親族（配偶者・子）については、役員会の判断とする。
3. 上記1以外の球友会会員についても、役員会の判断とする。

以 上

編集後記

会報「新球友」創設六十周年記念号発刊に際し、ご多忙にも関わらず、ご寄稿賜りました先輩諸兄・四回生の皆様、立命館大学の上西様、部長の奥田以在教授、球友会会長の田村好司様、監督の手塚整廣様、コーチの塚本幸雄様、事務局の藤森稔人様をはじめ関係者各位の皆様、そして原稿集めや原稿整理に協力していただいた部員・マネージャー諸氏に心より厚く御礼申し上げます。

このような重要な冊子を作成するのにデータ編集の経験が一切なく、不安ばかりでしたが、特に前任の四回生茶城さんのお力添えのおかげで無事に創設六十周年記念号「新球友」の発行が叶いました。本来に深く感謝しております。また、編集にあたる不手際により先輩諸兄にご迷惑ご無礼を多々おかけしましたことを深くお詫び申し上げます。何かと至らない点があるかと思いますが、この会報「新球友」を通して、部員の活動を身近に感じていただき、この軟式野球部の発展にご協力いただければ幸いです。

今後の発刊に際しても「新球友」が永久に続き、皆様のご交流の役割に立っていくことを心より願っております。

「新球友」創設六十周年記念号

二〇一九年十一月発刊

発行者 同志社大学体育会軟式野球部

編集者 太田 悠馬

印刷所 株式会社 春日 京都支店

TEL (075) 361・6688

FAX (075) 361・7766